

第 22 回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日 時：2018 年 10 月 15 日（月）9:30-12:00

場 所：国立情報学研究所 19 階 1901-1903 会議室

出席者：配布資料参照

議事

1. 前回議事要旨確認 (資料 1)
2. 「これからの学術情報システムの在り方について」改訂について (審議) (資料 2-1～2-2)
3. 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について (最終まとめ)」および「2020 年以降の目録所在情報システム (CAT2020) テスト運用について」について (審議) (資料 3-1～3-3)
4. 電子リソースデータ共有作業部会の活動について (報告) (資料 4)
5. NACSIS-CAT 検討作業部会の活動について (報告) (資料 5)
6. 第 20 回図書館総合展について (報告) (資料 6)
7. その他

配付資料

委員名簿

1. 第 21 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. 「これからの学術情報システムの在り方について」の改訂について
- 2-2. 「これからの学術情報システムの在り方について」改訂 (案)
- 3-1. 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について (最終まとめ)」および「2020 年以降の目録所在情報システム (CAT2020) テスト運用について」について
- 3-2. NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について (最終まとめ)
- 3-3. 2020 年以降の目録所在情報システム (CAT2020) のテスト運用について
4. 電子リソースデータ共有作業部会活動報告
5. NACSIS-CAT 検討作業部会活動報告
6. 第 20 回図書館総合展について

参考資料

1. 統合的発見環境実現のための基盤構築 (たたき台)
2. 今後目指すべき学術情報基盤の在り方補足
3. 2020 年目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) 再考のための提議
4. CAT2020 クライアント作成のための技術資料

2018年10月1日現在

2018年度これからの学術情報システム構築検討委員会委員

氏名	所属機関・職名	備考
小山 憲司	中央大学文学部教授	委員長
相原 雪乃	北海道大学附属図書館事務部長	
佐藤 初美	東北大学附属図書館情報管理課長	
米澤 誠	京都大学附属図書館事務部長	
粟谷 禎子	公立はこだて未来大学情報ライブラリー	
原 修	立教大学図書館利用支援課課長	
飯野 勝則	佛教大学図書館専門員	
近藤 茂生	立命館大学学術情報部次長	
呑海 沙織	筑波大学図書館情報メディア系教授	
佐藤 義則	東北学院大学文学部教授	
大向 一輝	国立情報学研究所コンテンツ科学系准教授	
小野 亘	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長	
江川 和子	国立情報学研究所学術基盤推進部次長	陪席
古橋 英枝	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員	陪席
片岡 真	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長	事務局
上野 友稔	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長	事務局
三村 千明	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員	事務局

第 21 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：2018 年 8 月 20 日（月）15：00～16：30

2. 場所：学術総合センター 22 階 2208 会議室

3. 出席者：

（委員）

小山 憲司	中央大学 文学部 教授
佐藤 初美	東北大学附属図書館 情報管理課長
三角 太郎	東北大学附属図書館 情報サービス課長
米澤 誠	京都大学附属図書館 事務部長
栗谷 禎子	公立はこだて未来大学情報ライブラリー（テレビ会議）
原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長
近藤 茂生	立命館大学図書館 学術情報部 次長
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授
小野 亘	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
吉田 幸苗	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（欠席）

相原 雪乃	北海道大学附属図書館 事務部長
飯野 勝則	佛教大学図書館 専門員
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 教授
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授

（陪席）

江川 和子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長
-------	---------------------

（事務局）

上野 友稔	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長(CAT/ILL 担当)
三村 千明	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員(CAT/ILL 担当)

<配布資料>

委員名簿

1. 第 20 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1-1. 「2020 年以降の目録所在情報システム（CAT2020）運用の新基準」の公開について
- 2-1-2. 2020 年以降の目録所在情報システム（CAT2020）の運用における新基準

2-1-3. 2020年以降の目録所在情報システム（CAT2020）の運用における新基準（用語集）

2-1-4. NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（要点）

2-2. CAT2020関係文書の改訂スケジュール案

<参考資料>

1. 第20回これからの学術情報システム構築検討委員会議事2「NACSIS-CAT検討作業部会の活動について」のまとめ

4. 議事：

（1）前回（第20回）委員会の議事要旨確認

メール審議を経て8/8付で確定したため、委員会内での確認は割愛した。

（2）「2020年以降の目録所在情報システム（CAT2020）の運用における新基準」の公開について（審議）

三角NACSIS-CAT検討作業部会主査より、資料2-1-1～2-1-4について説明があり、続けて小野委員より資料2-2について説明があった。委員長より、本日の進行について、事前に集めた委員からの意見をもとに「公開文書の構成」、「公開文書の名称」、「新基準適用後の概念図」の修正、「今後の作業と公開スケジュール」の4点に絞る旨の提案があった。審議の結果、資料2-1-2～2-1-4を一つにまとめる前提で、検討経緯と今後の計画を冒頭に加え、資料2-1-2（新基準）の項番0に概要を組み込み、最後に資料2-1-3（用語集）をつけることとなった。文言等の詳細については、メールで追加意見を集めた上で、本日の審議の内容も含めて文書に反映し、改めてメール審議を実施することとなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

[公開文書の構成について]

- 現行のNACSIS-CAT/ILLからの変更点が端的に分かるように、資料2-1-4（要点）、2-1-2（新基準）、2-1-3（用語集）といった順に並び変え、統合して公開してはどうか。
 - 「新基準」には基準しか記載されていない。基準が設定された背景を理解するためには、「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）」を読み、さらに「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）」からの変更についてを確認することが前提となる。今回の文書と一緒に「実施方針」の改訂版を公開する、または「新基準」の中に「実施方針」の最低限の内容を盛り込んだ方がよいのではないか。
 - 目録担当が業務で利用する「目録情報の基準」や「コーディングマニュアル」の改訂版は2020年度までに完成する。今回の文書は、これまでの検討の流れに沿って提示してきた各文書を踏まえた上で読んでいただく文書なので、再度「実施方針」の内容を盛り込む必要はないのではないか。
 - 各参加館からの見え方、分かりやすさが一番重要だと思う。今回の公開資料をこれまでの検討の最終的なまとめとして位置付け、検討経緯と今後の計画、「実施方針」

からの変更点を「新基準」の前につけてはどうか。考え方を整理する議論は今回の文書で完結させ、今後は各種マニュアル類の整備段階に移っていく、ということを宣言することが重要ではないか。

☆ 検討経緯と今後の計画を冒頭に追加した上で、新基準の前提として「実施方針」からの変更も含めて概要にまとめることにしたい。

- 現在の「実施方針」については、その後の「実施方針からの変更について」があり、単独では内容的に無効になる旨や、今後の「目録情報の基準」や「コーディングマニュアル」の改訂予定等も明記すべきではないか。
 - 先述の検討経緯と今後の計画に関する文章を作成する際に、資料 2-2 を前提として、説明を加えることにしたい。

[公開文書の名称について]

- 「目録情報の基準」を近く改訂できるのであれば、「新基準」という名称についても見直した方がよいのではないか。
 - 「新基準」ではなく、「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について」という名称を生かし、最終的なまとめであることを示す文書名にしてはどうか。
 - ☆ 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(最終まとめ)」を仮題として、他に案があればメール審議で議論したい。

[「新基準適用後の概念図」の修正について]

- 資料 2-1-2 の「新基準適用後の概念図」は、色の数や情報量を少なくした方が見やすくなるのではないか。
 - 詳細はメール審議で議論し、最終確定とする。

[今後の作業と公開スケジュールについて]

- 10/31(水)の図書館総合展で本委員会に関するフォーラムを開催予定である。このタイミングに合わせて文書を公開し、説明するのがよいのではないか。
 - 8 月中を目途に本日欠席の委員を含めて修正等の意見を募り、委員長、NACSIS-CAT 検討作業部会、事務局で調整の上、原案を作成し、メール審議を行った上で、10 月中旬には公開する方向で、各作業を進めたい。

[その他]

- 今回の文書は公開後、参加館からの意見を募るのか。
 - 「案」として公開し、意見を募って反映するのではなく、文書としては確定版として公開する。意見を募る場は別途用意し、集まった意見や質問は各種マニュアル整備に反映し、加えて来年度予定している説明会等に反映することを想定している。

以上

2018年10月15日
国立情報学研究所

「これからの学術情報システムの在り方について」の改訂について

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、2015年に「これからの学術情報システムの在り方について」（2015年5月29日、以下「在り方」）をまとめ、電子情報資源のデータ管理・共有のワークフローの検討及びNACSIS-CAT/VILLの再構築（軽量化・合理化）に取り組んできた。これまでの検討を踏まえ、電子情報資源・印刷体を区別することなく扱える統合的運用の整備を最重要課題として、2020年以降の今後進むべき方向性、そのために解決すべき課題に取り組むために、以下のとおり「在り方」の改訂のための検討を行う。

1. 「これからの学術情報システムの在り方について」改訂（案）について
資料 2-2 「これからの学術情報システムの在り方について」改訂（案）のとおりに

2. 今後の検討スケジュール

日時	検討の課題
2018年10月	第22回これからの学術情報システム構築検討委員会での審議
2018年10月下旬 ～11月上旬	「在り方」改訂案の修正，委員会での議論の取りまとめ
2018年11月中旬 ～12月中旬	「在り方」改訂案のメール審議
	「在り方」改訂案に沿った作業部会再編案のメール審議
2018年12月下旬 ～2019年1月上旬	「在り方」改訂案の修正，メール審議の取りまとめ
	作業部会再編案の修正，メール審議の取りまとめ
2019年1月下旬	第23回これからの学術情報システム構築検討委員会での「在り方」改訂案および作業部会再編案の審議
2019年2月	大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議での審議
2019年3月	「在り方」改訂版の公開

2018年 月 日

これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システムの在り方について（改訂版）
（案）

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、標記に係る状況について、2015年に「これからの学術情報システムの在り方について」（2015年5月29日、以下「在り方」）をまとめ、電子情報資源のデータ管理・共有のワークフローの検討及びNACSIS-CAT/ILLの再構築（軽量化・合理化）に取り組んできた。以下では、これまでの検討を踏まえ、現在の目録所在情報サービス機能の維持を前提としつつ、電子情報資源への対応等、より豊かな機能を持ったシステムを各機関が選択的に導入可能とするシステムの実現に向け、進むべき方向性、当面の課題、および検討体制を提示する。

1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」（1980年）を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。特に、電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと、また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていることへの対応が急務となっている。

2. これまでの検討

電子情報資源・印刷体資料の区別なく、ユーザーが必要とする学術情報を統合的に発見し、迅速にアクセスできる環境（これを「統合的発見環境」と呼ぶ）の構築に向けた検討を行ってきた。検討の前提として、「統合的発見環境」の実現には、その基盤として標準化されたワークフローに基づいて統合的に運用される業務システムと、そこで整備されるデータ（これを「統合的運用」と呼ぶ）が必要となることが確認された。また、クラウド等の技術進展や電子情報資源・印刷体を区別なく扱うことのできるシステムの登場によって、「統合的発見環境」を実現する選択肢が広がっていることや、システムの共同調達・運用によって「統合的運用」を実現し、各機関でのコスト削減と運用強化を図る新たな可能性があることも議論された。

電子情報資源については、ERDB-JPの構築・運用による国内刊行の電子リソースのデータ共有の推進とともに、商用システムの検証を通じて、契約から利用まで一貫した

ワークフローの検討を進めてきた（「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成 28 年度最終報告）」及び「同（2017 年度最終報告）」）。そのなかで、電子情報資源の効率的なワークフロー実現のためには、契約パッケージに含まれるタイトルリストや利用条件等の共通的なデータを共有するための中央システムが必要であり、各機関が契約管理やアクセス提供を行うローカルシステムとの適切な連携によって、重複する業務の削減につながる事が明らかになった。

印刷体については、2020 年度に向けた NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化の方策として、「外部機関作成書誌データのシステム登録時の事前処理」や「出版物理単位での書誌作成」等、書誌データ作成方針の変更を進めている。（「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（最終まとめ）」（2018 年 10 月〇日、以下「最終まとめ」））。

これらの検討を踏まえ、「統合的発見環境」及び「統合的運用」の整備を具体化する方策として、従来の NACSIS-CAT/ILL が提供する冊子体を中心とした書誌情報の供給及び資源共有の機能を維持しつつ、各機関がより豊かな機能（電子情報資源のワークフローをサポートする機能や、電子情報資源と印刷体のワークフローが一体となったシステム、電子情報資源も含めた ILL 機能等）を選択的に導入するための環境が必要であることが確認された。

3. 進むべき方向性

これまでの検討を踏まえ、これからの学術情報システムが実現すべき機能および検討課題について、以下の 5 点にまとめた。

(1) 「統合的発見環境」や「統合的運用」を可能にする新たなネットワークシステムの構築

「統合的発見環境」及び「統合的運用」の実現に向け、従来の NACSIS-CAT/ILL の枠組みを維持し、さらにより豊かな機能を選択可能な環境を整備する。そのために、国立情報学研究所等が集中的に提供する中央システムと、各機関が中央システムと連携して運用するローカルシステムを有機的に連携させた新たなネットワークシステムがサポートする機能を定め、それぞれが担うべき役割を整理する。

(2) 持続可能な運用体制の構築

新たなネットワークシステムを運用するためには、持続可能な新たな運用体制が必要不可欠である。そのなかで、各機関が連携協力するためのコミュニティ形成や、最低限基礎的なサービスの享受と、より豊かな機能を利用する場合を切り分けたコスト負担等について、検討を行う。

(3) システムの共同調達・運用への挑戦

各機関や国立情報学研究所では、これまでそれぞれが単独でシステムを調達・運用してきたが、予算や人員の縮減が進むなかで、「統合的運用」を実現するシステムの共同調達・運用への移行を選択肢とした課題解決も現実的になってきた。その実

現可能性を見極めるため、必要なコストと各機関での分担、また運用主体等について、踏み込んだ検討を行う。

(4) メタデータの高度化

RDA (Resource Description and Access) 及び新しい『日本目録規則』への対応のほか、BIBFRAME 等の新たな国際標準への対応について検討を行う。

(5) 学術情報資源の確保

従来印刷体に加えて幅広く電子情報資源を確保するとともに、過去の資料の電子化を推進し、活用を図る。

4. 当面の課題

本委員会では、進むべき方向性のうち、当面の課題を以下の3点とする。

- (1) 「統合的発見環境」や「統合的運用」を可能にする新たなネットワークシステムのモデル構築
- (2) 持続可能な運用体制の構築
- (3) システムの共同調達・運用に向けた課題検討

5. 検討体制

当面の課題への取組みは、大学図書館等と国立情報学研究所との連携の下、以下の体制で進める。

- (1) 本委員会のもとに設置した現在の作業部会を見直し、上記課題に対応した新たな作業部会を設置する。
- (2) ライセンスされた電子リソースの確保を強化する「大学図書館コンソーシアム連合」、大学の研究成果の発信システムを強化する「オープンアクセスリポジトリ推進協会」とともに課題の解決に向けた具体的な取り組みに着手する。
- (3) 大学図書館の各協(議)会等での主体的な取組みと一層の連携を図る。

※ 本文書内で使用する用語の一部については、別紙『用語集』で説明しています。

※ 本委員会における検討状況は、以下でご確認いただけます。

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/about/document/>

別紙 用語集

この用語集は、本文書内で使用されている用語を補足するものとして作成しています。そのため一般的な文脈で使用される場合とは、説明内容が異なる場合があります。

電子情報資源

電子ジャーナル、電子ブック、データベースなど、インターネットに接続されたパソコンやタブレット端末等からアクセスできる学術情報資源のこと。

印刷体資料

図書や雑誌など、紙に印刷された学術情報資源のこと。

統合的発見環境

電子情報資源・印刷体資料の区別なく、ユーザーが必要とする学術情報を統合的に発見し、迅速にアクセスできる環境のこと。(具体的には…?)

統合的運用

統合的発見環境の実現のために、その基盤として標準化されたワークフローに基づいて統合的に運用される業務システムと、そこで整備されるデータのこと。

ワークフロー

定型業務を実施する際の一連の業務の流れ。業務手順。ワークフローシステムとは、その業務手順を電子化したシステムのこと。

ネットワークシステム

コンピューターネットワークで、コンピューターを有機的に運用できるようにしたシステム。ネットワークシステムとしての NACSIS-CAT/ILL は、中央システムである NACSIS-CAT/ILL に、参加機関が運用するローカルシステム(=「図書館システム」と呼ばれる)が CATP プロトコルで接続して(一部 WebUIP, Z30.50) 書誌情報及び所蔵情報を共有し、30 年以上にわたり印刷体を主とした目録業務や相互利用業務を効率的に行ってきた。

中央システム

各機関で必要となるデータや機能を、国やコンソーシアムレベルで一元的に管理・運用するシステムのこと。国立情報学研究所が運用する NACSIS-CAT/ILL, IRDB, ERDB-JP 等が該当する。

ローカルシステム

各機関が独自に運用するシステムのこと。図書館システムのほか、機関独自で運用する機関リポジトリ、デジタルアーカイブ、OPAC、リンクリゾルバ、ディスカバリーサービスなどもこれに該当する。

コミュニティ

ある目的のために、ノウハウや人的資源、システム等を共有するための共同体。「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」やその下に設置された「大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)」、 「オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)」もこれに該当する。

Resource Description and Access (RDA)

『英米目録規則第2版』の内容と形式を刷新した新しい目録規則のこと。

新しい『日本目録規則』(JLAでは「日本目録規則2018年版」)

FRBR (Functional Requirements for Bibliographic Records) モデルに基づき、従来の目録からの継続性をもつ、新しい目録規則のこと。具体的には、典拠コントロールを重視するがその際は日本の状況を踏まえた現実的な対応をすること、コア・エレメントについての RDA (Resource Description and Access) を参考にした規定、書誌階層の考え方の継続、構成部分へのアクセスの徹底、和古書漢籍の十分な扱いを目指している。

BIBFRAME

図書館コミュニティ内外で広く書誌情報が活用されるよう Linked Data に対応した、MARC21 に替わる書誌記述のためのデータモデルのこと。

「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」および
「2020年以降の目録所在情報システム（CAT2020）テスト運用について」について

1. 目的

本委員会では、2015年度以降、CAT2020に向けて、NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について検討を重ね、各種文書を公開してきた。

これらの検討の最終的なまとめである「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」とCAT2020に向けた具体的な次の作業である「2020年以降の目録所在情報システム（CAT2020）テスト運用について」の各文書を確定すると共に、委員会Webサイト等で公開し、国公立大学各図書館協会・協議会およびNACSIS-CAT/ILL参加館への周知を行う。

2. 対象となる文書

- ・ NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）（資料3-2）
- ・ 2020年以降の目録所在情報システム（CAT2020）テスト運用について（資料3-3）

3. 審議事項

「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」の内容について、以下の点をご審議いただきたい。

- ・ 文体の統一の要否（Ⅰは「である」調、Ⅱは「ですます」調）
- ・ 「4.4 修正をせずに書誌を新規登録する場合の注意点」～「4.6 例外規定」の取り扱い
- ・ 「9.3 概要」の記述文言
- ・ 「CAT2020以降」「CAT2020以前（または、まで）」の表記

以上

2018年10月 日
これからの学術情報
システム構築検討委員会

NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）

これからの学術情報システム構築検討委員会は、2014年7月開催の「第8回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」で、2020年にむけた目録所在情報サービス見直しの検討を要請された。それを受け現行の目録所在情報システム（NACSIS-CAT/ILL）の2020年に向けた軽量化・合理化を検討課題として設定し、これまで議論を重ねてきた。2015年7月には、実務に即した詳細な検討作業を進めるためにNACSIS-CAT検討作業部会を設置し、さらに議論を深めてきた。本文書は2020年以降の目録所在情報システム（以下、CAT2020という。）に向けた議論の最終まとめであり、この結果をもとに、必要なシステムの開発および運用に関わるマニュアル等の整備を進めていく。なお、本委員会と国立情報学研究所は連携してCAT2020以降の目録所在情報システムについても継続して検討を行う。

I. これまでの検討経緯と今後の進め方

1 これまでの経緯

本格的な検討の開始は2015年のNACSIS-CAT検討作業部会設置後であり、その結果は段階的に公開してきた。現在は以下の文書を公開済みである。

- (1) 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」¹⁾
(2015年10月27日公開)（以下、「要点」）

「要点」では、「書誌作成機能」と「書誌利用(検索)機能」との分離、書誌作成機能であるNACSIS-CATの軽量化・合理化、NACSIS-ILLを含む書誌利用(検索)機能の強化等の方向性を示した。

- (2) 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針）」²⁾
(2016年6月29日公開)（以下、「基本方針」）

「基本方針」では、「要点」で示した方向性で軽量化・合理化を実現するための要件を定めた。主なポイントは、「書誌作成機能」における外部機関作成書誌データの活用、書誌管理作業負担の軽減、レコード調整の廃止であり、その実現のためにVOLグループの繰り返し（いわゆるVOL積）の記述の禁止と書誌階層のフラット化による書誌作成単位の出版物理単位への変更、複数の外部機関作成書誌データのシステムによる事前登録を行うこととなった。それに伴い同一の資料に対する外部機関作成の複数の書誌データの存在の許容、所蔵のない書誌の存在の許容、NACSIS-CATとは異なる目録規則で作成された書誌の存在の許容等を決定した。一方で「書誌利用(検索)機能」では、機械処理による書誌の照合を行い、重複する書誌について一括表示する等の対応を取ること、また今回の見直しの対象は図書であり、雑誌は変更を予定していないことを明記した。

- (3) 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）」³⁾
(2017年2月8日公開)（以下、「実施方針」）

「実施方針」は、「基本方針」で定めた要件を元に、システム開発に必要な機能項目、運用方法お

よび移行計画を示したものである。ここで同一の資料に対して複数の書誌が許容される状態を並立と新たに定義し、該当の書誌の間の関係を並立書誌と定義した。一方で書誌の中身がほとんど同一で、違いが無視できる場合は重複書誌として統合処理の対象とした。書誌利用時には機械処理により、並立書誌を統合的に見せる方針とした。

- (4) 「『NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）』からの変更について」⁴⁾
(2018年1月25日公開) (以下、「実施方針変更」)

実施方針の公開後、全国7か所で意見交換会を開催するなど、NACSIS-CAT/ILL 参加館との認識の共有に努めた。システムによる複数の外部機関作成書誌データの事前登録については、目録作成作業の軽減が期待される一方で、同一の資料に対する複数の書誌並立による登録業務および ILL 業務の煩雑化への危惧が多数寄せられた。また所蔵のない書誌が BOOK データセット (以下、BOOK) 中に多数発生することについても懸念する声が多かった。

それらを受け NACSIS-CAT 検討作業部会および国立情報学研究所で、システムベンダーも交えて対応策の検討を行い、技術的な目処が立ったことから一部の方針を変更した。その変更の要点を示したのが「実施方針変更」である。その要点は以下のとおり。

- ・ 新たに PREBOOK データセット (以下、PREBOOK) を設ける。外部機関作成書誌データは PREBOOK にシステムが事前登録する。この時、異なる外部機関由来の並立書誌を回避するため、同じ ISBN の書誌データがすでに PREBOOK にある場合には、分類、件名等を抽出して、既存の書誌データにシステム的に追記するのみとする。
- ・ 目録業務に対して BOOK と PREBOOK のシームレスな横断検索環境を提供する。参加館が PREBOOK 中の書誌データに所蔵登録した時点で、該当データは自動的に BOOK に移行する。システム登録による所蔵のない書誌データは PREBOOK の中のみ存在することとし、ILL 業務においては従来通り BOOK のみを対象として検索を行う。

2 今後の進め方

以上が公開済み文書とその要点であるが、本文書では 2020 年以降の運用における「目録情報の基準」の変更点を追加した。これらについては表 1 に示すスケジュールにより改訂される各関連マニュアル等で最終的にまとめられる。

2.1 各種マニュアル・文書の改訂

NACSIS-CAT/ILL の運用にかかわる各種マニュアル・文書の整備・改訂は、従来から国立情報学研究所が行ってきたが、CAT2020 関連の文書についても、本文書に定める目録情報の基準の変更に沿って、国立情報学研究所が改訂を行う。具体的には図 1「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化関連文書について」のとおり、『目録情報の基準』および『コーディングマニュアル』は、2019 年度第 2 四半期までに改訂を進める。また、『クライアント作成のための技術資料』は図書館システムベンダー向けに、『セルフラーニング教材』は新規目録担当者向けに、変更点に関する補足資料を 2018 年度中に準備する。その他の NACSIS-CAT/ILL 関連マニュアルは、2019 年度以降に順次改訂する。

2.2 検討課題

CAT2020 以降の課題としては、多様なデジタルコンテンツへの対応や、新しい目録規則の適用、国立国会図書館等の他機関とのデータ連携などがある。また運用コミュニティの再検討も含めた運用モデルの再構築、デジタルコンテンツにも対応した業務フローの抜本的な見直し、人材育成体制の整備等、統合的発見環境のさらなる整備のため、体制等を見直しながら検討を続けていきたい。

なお、本文書の中で使用する語句の意味を参照するため、「用語集」を付した。

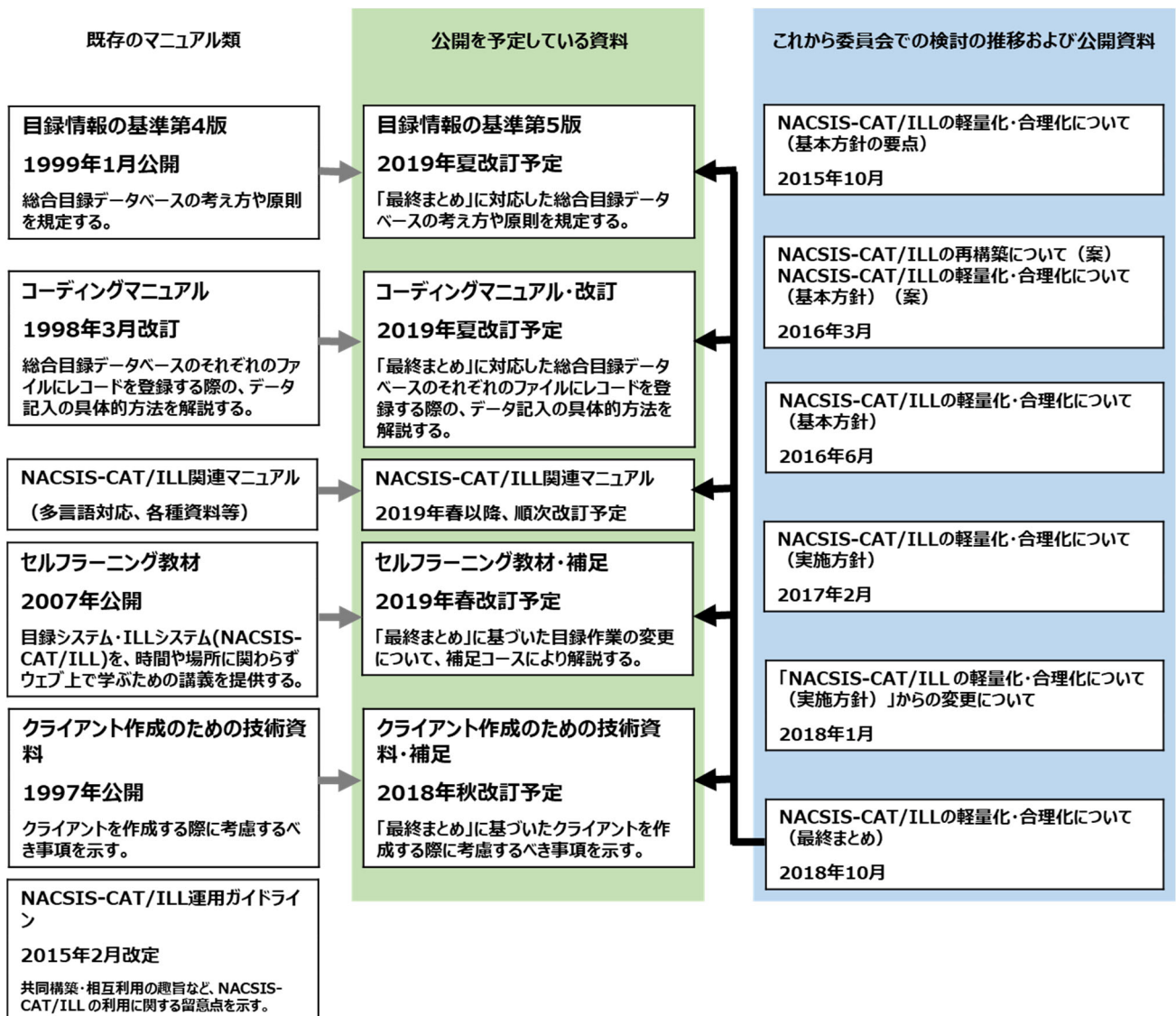


図1 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化関連文書について」

表1 NACSIS-CAT/ILL の運用にかかわる各種マニュアル・文書の整備・改訂スケジュール

フェーズ/年・期	2018年度				2019年度				2020年度			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
CAT2020	CAT2020開発				CAT2020テスト運用				CAT2020始動			
	クライアント作成のための 技術資料・補足		公開		セルフラーニング教材・補足		公開		CAT2020始動			
	目録情報の基準第5版				公開				CAT2020始動			
	コーディングマニュアル・改訂				公開				CAT2020始動			
	関連マニュアル				CAT2020説明会/セルフラーニング				CAT2020説明会/セルフラーニング			
				CAT2020問い合わせ窓口				CAT2020問い合わせ窓口				

注)

1) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」

https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20151027.pdf

2) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）」

https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20160629.pdf

3) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）」

https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20170208.pdf

4) 「『NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）』からの変更について」

https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20180125.pdf

II. 2020 年以降の運用における「目録情報の基準」の変更について

1 変更のポイント

CAT2020 の運用にあたって、図書書誌データの作成方法を変更します。本節では変更のポイントを説明し、変更の詳細については操作の流れごとに本章 2 節以降で説明します。

ポイント① 事前システム登録

- ・ 従来の BOOK に加えて、PREBOOK を導入し、外部機関作成書誌 (JPMARC, TRCMARC, USMARC, UKMARC, GPOMARC, DNARC) を、事前にシステム登録します。登録の際には ISBN 等を用いて同定処理を行い、BOOK および PREBOOK 上で同一と判定された書誌データは重複して登録しません¹⁾。なお、登録をとりやめた書誌からは SH, CLS, OTHN 等を抽出し、登録済みの書誌データに自動的に追記します。また、従来の参照 MARC としての提供も継続します。
- ・ 外部機関作成書誌データをシステム登録するために、NACSIS-CAT で採用するものとは異なる目録規則で作成された書誌データの存在を許容します。

ポイント② 所蔵登録時の書誌の自動移行

- ・ PREBOOK の書誌データに所蔵登録を行うと、当該書誌データは自動的に BOOK に移動します。

ポイント③ 出版物理単位での書誌作成

- ・ 書誌作成単位を「固有のタイトル」の有無に関わりなく、出版物理単位に変更します。
- ・ VOL グループの繰り返し (いわゆる VOL 積) の記述を禁止します。
- ・ 書誌構造リンク形成 (親書誌とのリンク形成) を任意とします。

ポイント④ 書誌並立の許容

- ・ 同一の資料に対する複数の書誌データの存在を許容し、この時の書誌データの間を並立書誌として定義します。

ポイント⑤ 2020 年以前作成の書誌データとの共存

- ・ 第 4 版以前の「目録情報の基準」をもとに 2020 年 3 月 31 日までに登録された書誌データは、2020 年 4 月 1 日以降も BOOK に残し、所蔵登録も認めます。既存の VOL グループの繰り返しが記述された書誌データも残し、所蔵登録を認めます。ただし、新たな VOL の追加は禁止します。
- ・ 既存の書誌データにある VOL グループの繰り返しを、システムを用いて遡及的に分割することは行いません。参加館が既存の書誌データを利用して VOL を分割した書誌データを新たに作成することは認めます。

ポイント⑥ 参加館間のレコード調整の廃止

- ・ 書誌修正項目を発見館修正可と修正不可に分け、修正不可の項目がある書誌データを利用する場合は発見館が新規書誌を作成することとし、参加館間のレコード調整は廃止します²⁾。
- ・ 重複書誌を再定義 (書誌の内容がほとんど同一で、違いが無視できる場合) し、これらを NII 側で統合処理します³⁾。

ポイント⑦ 並立書誌の自動同定・グループ化 (RELATION テーブルへの登録)

- ・ 並立書誌間の関連付けを記述する RELATION テーブルを導入し、並立書誌を相互に関連付けします。

ポイント⑧ 典拠データの自動リンク形成

- 外部機関作成著者名典拠 ID を基に、著者名典拠データとの自動同定・リンク形成を行います。

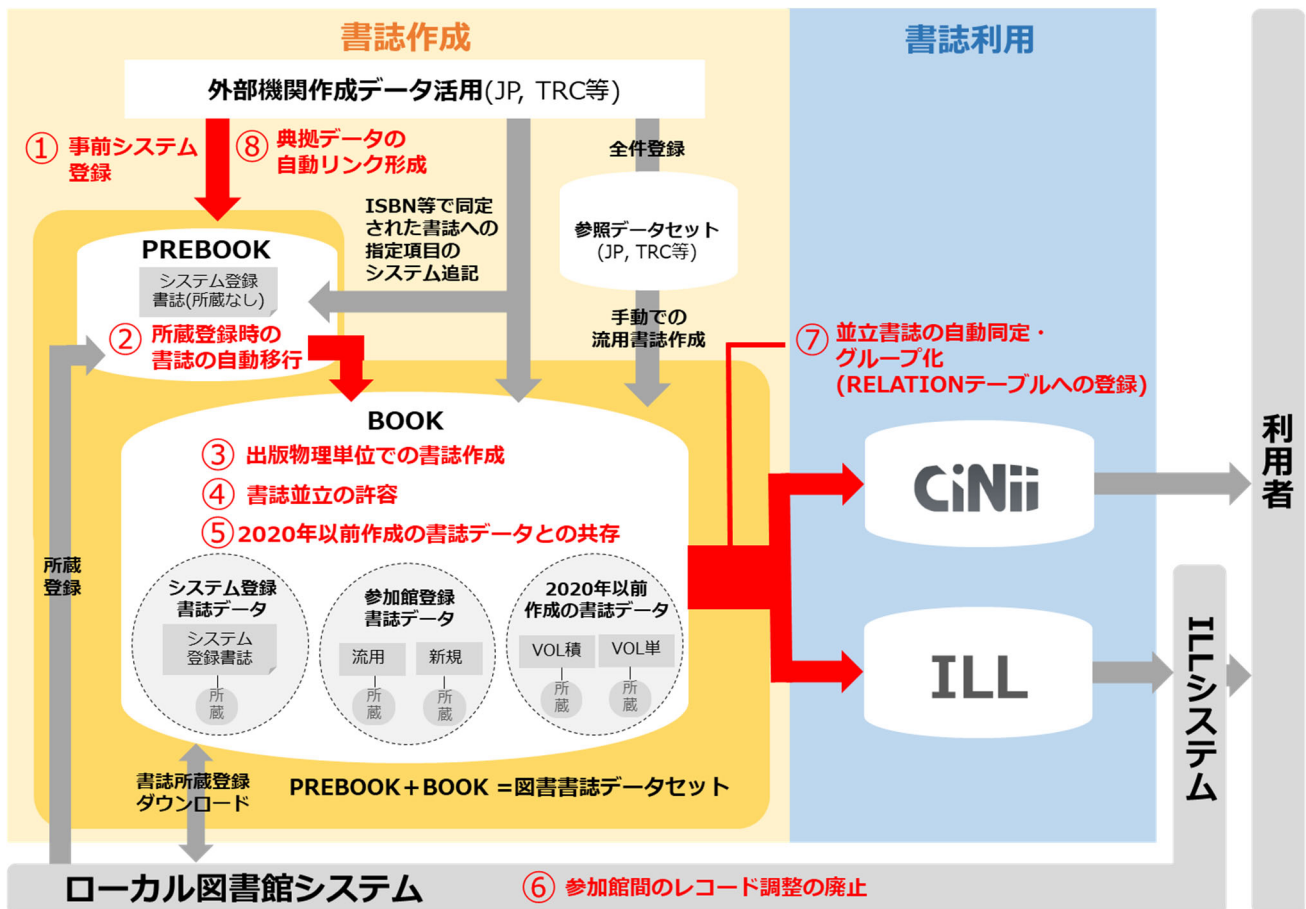


図 2 NACSIS-CAT/ILL 変更の 8 つのポイント

注)

- 登録条件は、「2 外部機関作成書誌データのシステム投入時における事前処理」参照
- 書誌修正項目の詳細は、「4 書誌データの新規登録・修正」参照
- 前述の並立書誌か、重複書誌かの判断は「5 書誌データの品質管理」参照

2 外部機関作成書誌データのシステム投入時における事前処理

2.1 目的

この基準は、外部機関作成書誌データを図書書誌データセット(PREBOOK または BOOK)に投入する際の事前処理に適用されるものです。これにより、同じ ISBN を持つ書誌が図書書誌データセットに複数登録されることを防ぐとともに、ISBN 等を基にして書誌データの同定を行い、既存データに不足しているデータを追記します。

2.2 対象範囲

2020年4月1日以降に、外部機関作成書誌データを NACSIS-CAT のシステム登録書誌データとして投入する際に適用します。この処理はサーバー側で自動的に行われるため、目録担当者が作業する必要はありません。

2.3 システム登録書誌データとして投入する外部機関作成書誌データの範囲

JPMARC, TRCMARC, USMARC, UKMARC, GPOMARC, DNARC (予定) の書誌データのうち、ISBN が記入されている書誌データ

2.4 システム追記

既存のデータに自動でフィールドを追加し、外部機関作成書誌データに含まれていたデータを記入することを「システム追記」と呼びます。システム追記を行う書誌データは、2020年4月1日以降に作成された書誌データとします。

2.5 事前処理の手順

2.5.1 外部機関作成書誌データにおいて VOL グループが繰り返されていた場合、VOL グループ毎に書誌データを作成し、次の処理に移ります。例えば、VOL: pbk. と VOL: hbk. が VOL 積されている書誌データがあった場合、VOL: pbk. と VOL: hbk. の 2 つの書誌データを作成します。

2.5.2 外部機関作成書誌データと同定される書誌データが BOOK にある場合は、以下のように処理します。

2.5.2.1 OTHN, NBN, LCCN, GPON (以下 OTHN 等とする), SH, CLN の各項目を文字列完全一致で比較し、同じものがなければシステム追記を行います。

2.5.2.2 CW は、項目がまったくなければシステム追記を行います。なお、CW フィールドはこれまで「構成部分の著作単位を記述する」(目録システムコーディングマニュアル 2.2.6 C) とされてきましたが、2020年以降は目次も許容します。

2.5.2.3 BOOK の書誌データにシステム追記した場合は、PREBOOK に対しては何も処理しません。

2.5.3 外部機関作成書誌データと同定される書誌データが BOOK になく PREBOOK にのみある場合は、2.5.2.1 および 2.5.2.2 を行います。

2.5.4 外部機関作成書誌データと同定される書誌データ（2020年3月31日以前に登録された書誌データを除く）が、BOOKにもPREBOOKにもない場合は、システム登録書誌データとしてPREBOOKに登録します。

2.6 その他

2.6.1 PREBOOKは、目録業務の際には検索対象となりますが、ILLやCiNii Books等においては検索対象とはしません。

2.6.2 この事前処理とは別に、すべての外部機関作成書誌データは、参照データセットとして蓄積され、書誌作成の際の流用元として利用できます。

2.6.3 PREBOOKにある書誌データは、参加館が書誌作成等の作業を行うことなく所蔵登録を行うことができます。所蔵を登録すると、当該書誌データは自動的にBOOKに移動します。

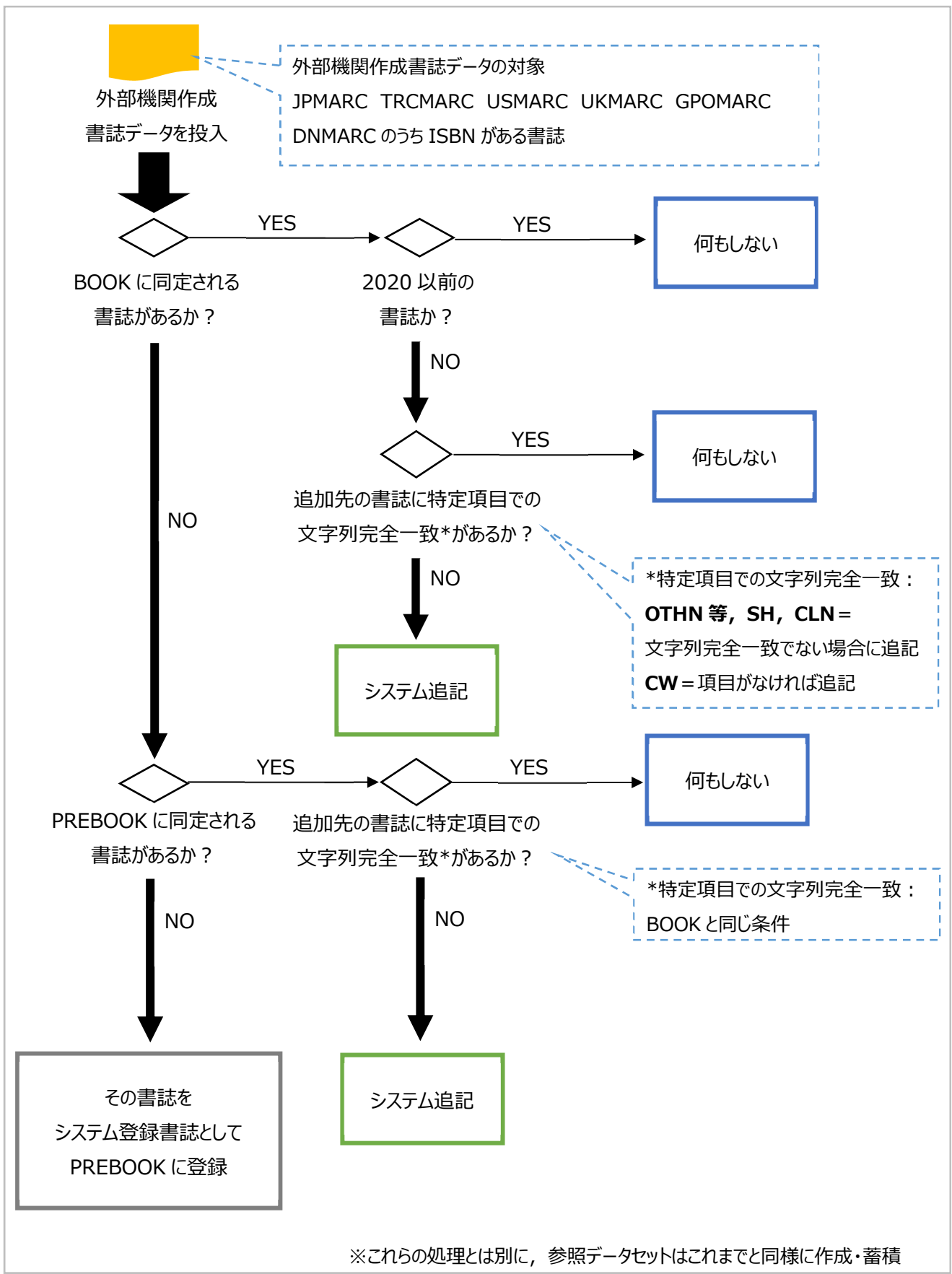


図3 外部機関作成書誌データのシステム投入時における事前処理

3 書誌作成単位

3.1 目的

出版物理単位での書誌作成を行うことによって、機械処理性の向上を図り、また個々の資料に関する記述を可能にします。

3.2 対象範囲

2020年4月1日以降の書誌作成に適用します。

《解説》

適用対象外である2020年3月31日以前に作成された書誌について、遡っての書誌修正作業は実施しません。

3.3 書誌作成単位

3.3.1 固有のタイトル毎に書誌を作成するという考え方を見直し、出版物理単位での書誌作成を原則とします。

3.3.2 VOLグループの繰り返しの記述を禁止します。

3.3.3 VOLグループの繰り返しの禁止について、一部の例外を認めます。

《解説》

これまで「上巻」「下巻」等はVOLグループの繰り返しで表現しましたが、今後は「上巻」「下巻」という出版物理単位毎にそれぞれ書誌データを作成する必要があります（登録例①参照）。

和漢古書等、一部の資料は、運用上の便宜を図るため、VOLグループの繰り返しでの記述を選択することを許容します。例外の対象となるものは3.4に規定します。

2020年3月31日以前に作成された書誌データが複数のVOLグループを持つ場合、各VOLに所蔵を登録することができます。また複数のVOLグループのある既存の書誌とは別に、当該資料の出版物理単位の書誌データを新規に作成し、所蔵登録することもできます（登録例②参照）。

登録例① 上巻が書誌作成済みで、下巻が出た場合の書誌作成の例

<既存書誌>

NCID : BB24397861
VOL : 上 ISBN : 9784309728742
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 2017.9
PHYS:689p : 挿図 ; 20cm



既存書誌はそのまま

NCID : BB24397861
VOL : 上 ISBN : 9784309728742
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代
訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 2017.9
PHYS:689p : 挿図 ; 20cm

既存書誌への VOL の追加は禁止

NCID : BB24397861
VOL : 上 ISBN : 9784309728742
VOL : 下 ISBN : 9784XXXXXXXXXX
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 2017.9-
201X.X
PHYS:2冊 : 挿図 ; 20cm

新たに下巻の書誌を作成

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL : 下 ISBN : 9784XXXXXXXXXX
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 201X.X
PHYS:XXXp : 挿図 ; 20cm

登録例② 既存の書誌とは別に出版物理単位の書誌を作成する場合の例

1～3巻の書誌が作成済みだが、出版物理単位の書誌を別途作成したい場合

<既存書誌>

NCID : BB23456789
VOL:1 ISBN:4165102407
VOL:2 ISBN:4165102504
VOL:3 ISBN:4165102601
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.6-1973.8
PHYS:3冊 ; 20cm



このまま所蔵を登録してもよい。

NCID : BB23456789
VOL:1 ISBN:4165102407
VOL:2 ISBN:4165102504
VOL:3 ISBN:4165102601
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.6-1973.8
PHYS:3冊 ; 20cm

新たに出版物理単位での書誌を作成してもよい。

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL:1 ISBN:4165102407
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.6
PHYS:518p ; 20cm

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL:2 ISBN:4165102504
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.7
PHYS:574p ; 20cm

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL:3 ISBN:4165102601
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.8
PHYS:534p ; 20cm

3.4 VOL グループの繰り返しを例外的に許可する資料について

例外として VOL グループを繰り返して表現してもよいとする資料は、以下のとおりです。

3.4.1 和古書，漢籍，西洋古典籍等，記述対象の資料毎に所蔵館が書誌データを作成し，その書誌データが他館で活用されることを前提としない資料。

3.4.2 多巻物であっても情報源が先頭の巻など 1 箇所にはかないマイクロ形態資料。

《解説》

業務の便宜上，上記の資料についてはこれまでどおりの運用を可能としますが，所蔵館の判断により出版物理単位で書誌データを作成することもできます。

また，和古書は江戸時代まで（1868 年以前），漢籍は辛亥革命まで（1912 年以前），西洋古典籍はおおむね 1830 年までに書写・刊行された資料とします。

複数巻での発行にもかかわらず書誌事項の情報源が 1 箇所にはかない場合は，必要に応じてデータを注記しますが，マイクロ形態資料は膨大な多巻物が存在し業務負担が増大するため，VOL グループを繰り返す表現の選択を可能とするものです。

4 書誌データの新規登録・修正

4.1 目的

この変更は、参加館同士の調整作業をなくし、業務負担を軽減するためのものです。

4.2 対象範囲

2020年4月1日以降の書誌データの新規登録・修正作業に対して適用します。

ただし、PREBOOKの書誌データを修正し、所蔵登録する場合は、ここで記載する内容とはかかわりなく、現物を基に慎重に判断し修正することができます。

4.3 変更点

原則として、2019年度以前に作成館と協議事項となっている項目（目録システムコーディングマニュアル 21.1 参照）を持つ目録対象資料は、書誌データの新規登録の対象とします。なお、これによって作成された書誌は、同一資料に対する書誌データと考えられる場合であっても、並立書誌データとして存在を許容します。

「図書書誌データ修正事項一覧」に従って判断し、既存書誌データのデータ内容と目録対象資料の間の相違点が、「修正不可」に相当する場合は、新規に書誌データを作成してください。「修正可」に相当する場合は、修正事項一覧表に従って修正してください。

この変更により参加館同士の連絡が不要となるため、2020年4月1日以降、レコード調整は廃止します。（5 書誌データの品質管理参照）

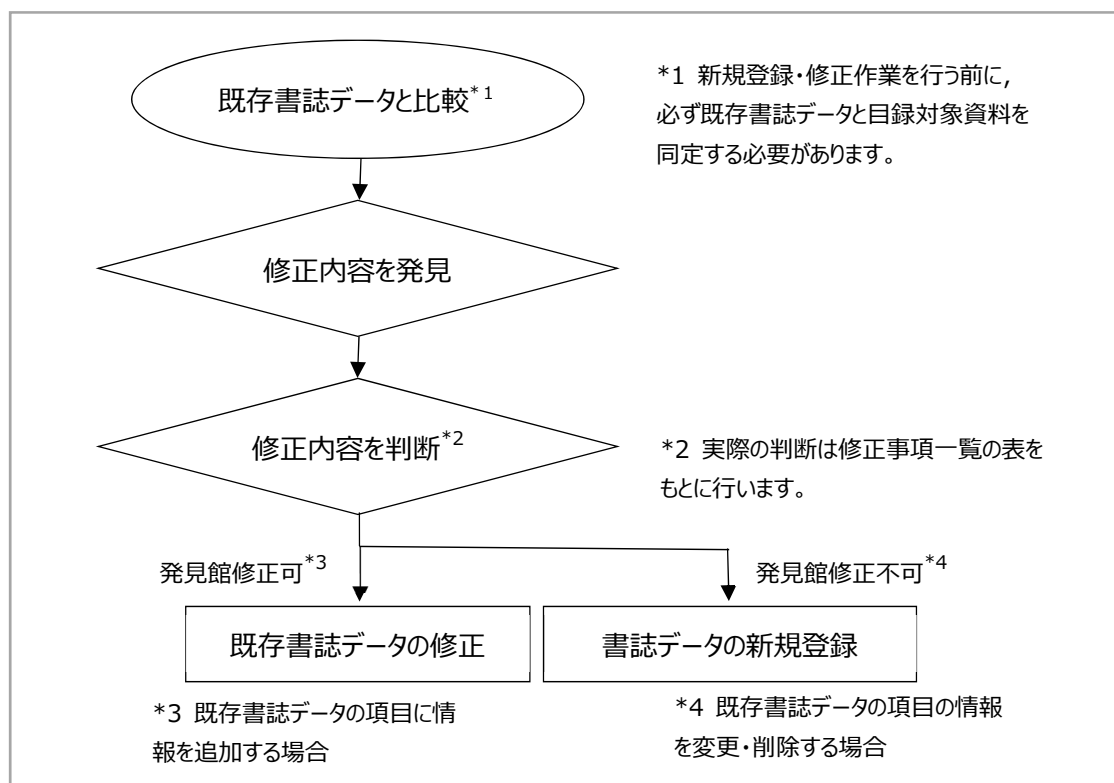


図4 新規登録・修正作業の流れ図

4.4 修正をせずに書誌を新規登録する場合の注意点

- 4.4.1 原則として、修正内容が既存書誌データの項目の情報に対して変更・削除を要する場合は、修正ではなく、新規書誌作成の対象とします。
- 4.4.2 入力レベルが「選択」であるフィールド（およびデータ要素）の相違だけでは、新規書誌作成の根拠とはなりません。
- 4.4.3 図書書誌データセット中の書誌データの特定のフィールドのデータ内容の相違のみによって新規書誌データの作成が正当化されることはありません。対応関係の最終的な確認は、当該書誌データ全体および当該目録対象資料全体について行う必要があります。

4.5 修正する場合の注意点

- 4.5.1 原則として、修正内容が既存書誌データへの情報の追加を要する場合は、新規書誌作成ではなく修正の対象とします。
- 4.5.2 修正を行うことが望ましいのは次の場合です。
 - 4.5.2.1 入力レベルが「選択」である項目に対するデータの記入・追加
 - 4.5.2.2 入力レベルが「必須」であるフィールドで、複数のデータが存在し得るときの2番目以降のデータの記入・追加

4.6 例外規定

- 4.6.1 既存書誌データの項目の変更・削除であっても、次の場合は新規登録ではなく修正を行う必要があります。
 - 4.6.1.1 データに明らかな誤りがあるとき
 - 4.6.1.2 初刷の情報源によるデータ修正に伴う、刷の情報の削除
 - 4.6.1.3 PHYS フィールドへ移動された付属資料の物理的事項に関する注記の削除
 - 4.6.1.4 UTL フィールド入力項目の削除
- 4.6.2 既存書誌データの項目に情報を追加する場合であっても、次の場合は修正ではなく新規登録を行う必要があります。
 - 4.6.2.1 ED フィールドの付加的版表示（副次的版表示）の追加
 - 4.6.2.2 PTBL フィールドの新規追加
 - 4.6.2.3 PTBL フィールドの中位の書誌の追加

4.7 その他

外部機関作成書誌データを事前処理した上で PREBOOK に登録することに伴い、異なる目録規則に基づいた書誌データの存在を許容します。そのため、記述形式についての修正を行う必要はありません（例：「pages」を「p.」に修正する等）。

表2 図書書誌データ修正事項一覧

ここでは、図書書誌データセットに登録されたすべての図書書誌データについて、各フィールドごとの具体的な修正事項と、その作業の区分を一覧表に示します。

A [通則]

A1

修正事項には、図書書誌データに対してかかるであろうと予想される修正の内容を列挙しています。

A2

「修正可」とは、修正すべき事項を発見した館が独自に慎重に修正することが可能です。

「修正不可」とは、修正すべき事項を発見した館がデータの修正をせず、新規に図書書誌データを作成することが可能です。

B [修正事項一覧]

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
GMD, SMD	(1) コード表改定に伴う訂正	○	
	(2) 明らかに不正なコードの訂正	○	
	(3) 記録されるべきコードがありながら未記入であるときのデータの追加	○	
	(4) 主たる資料種別コードの選択の相違によるコードの訂正		○
	(5) データの削除		○
YEAR, CNTRY, TTLL, TXTL, ORGL, REPRO	(1) コード表改定に伴う訂正	○	
	(2) 明らかに不正なコード, データの訂正	○	
	(3) 記録されるべきコードがありながら未記入であるときのデータの追加	○	
	(4) VOLフィールドの追加に伴うデータの訂正 (YEAR, ただし最終巻がない限り刊行終了年は追加できない)	○	
	(5) 目録対象資料が複数言語で記述されている場合のコードの追加	○	
VOL	(1) 装丁に関わる特殊な版表示に関わる語句の追加		○
	(2) ISBNの説明語句の追加	○	
	(3) 区切り記号の訂正	○	
	(4) VOLフィールドのデータが長すぎるときのデータのVOLフィールドからNOTEフィールドへの移動(ただし, 出版物理単位を識別するために必要な情報は残すこと)	○	
	(5) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(6) 書誌単位の取りかたの相違等による個別書誌の統合化		○
	(7) 価格に対する説明語句等の記述を削除する場合	○	
ISBN, XISBN, ISSN	(1) 空値に対するデータの追加	○	
	(2) 既述されてあるISBN, ISSNをXISBN, OTHNに移動 (最新の値に訂正するか, 既述のものが間違いであったような場合)	○	
	(3) XISBNの追加	○	
	(4) データの削除 (既述のものが間違いであったような場合)	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
PRICE	(1) 空値に対するデータの追加	○	
	(2) 最新の情報を基にしたデータの訂正	○	
NBN, LCCN GPON OTHN, NDLCN	(1) 空値に対するデータの追加	○	
	(2) フィールドの追加 (LCCN, GPONはOTHNに記入)	○	
	(3) 各参照MARC流用時の不適切データの訂正	○	
	(4) データの削除	○	
TR (タイトル)	【子書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) ルビの記入	○	
	(6) ヨミの追加	○	
	(7) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○	
	(8) 分かち書きの訂正	○	
	※(4)～(8)については, 今まで記述されていた形, 若しくはTRに採用されなかったものはVTに追加して記録することが望ましい		
	(9) タイトル関連情報の追加	○	
	(10) タイトル関連情報のヨミの追加	○	
	(11) 並列タイトル, 並列タイトル関連情報の追加	○	
	(12) データ要素の削除		○
	(13) データ要素の一部をEDに移動又はその逆 (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する)	○	
	(14) データ要素の一部をVOLに移動又はその逆 (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する)	○	
(15) データ要素の記述順序の並べ替え (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する) 例: 本タイトルの一部としていたものをタイトル関連情報に移動又はその逆	○		
(16) データ要素の一部をNOTEに移動 (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する)	○		

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
TR (タイトル)	【親書誌】		
	(1)～(8) 【子書誌】 (1)～(8)と同じ	○	
	(9) データ要素の削除		○
TR (責任表示)	【子書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) 責任表示の追加	○	
	(6) 書誌内容の変更を伴う責任表示の追加		○
	(7) 責任表示の変更		○
	(8) 責任表示の削除 (責任表示に何らかの修正が加えられた場合は, ALについてもそれに対応した修正を行う。ただし, 対象となる書誌レコードが複数の出版物理単位から成るとき, それが部編名ごとに異なる責任表示を有する場合は, 別書誌レコードを作成する)		○
	(9) 並列責任表示の追加	○	
	【親書誌】		
	(1) 責任表示の修正 (ただし, 親書誌レコードにおける責任表示の記入は各参加組織の選択事項である。また, 子書誌全体にかかるもの以外は追加してはならない)	○	
	ED	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○
(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正		○	
(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正		○	
(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)		○	
(5) 副次的版表示の追加			○
(6) 2番目以降の版責任表示の追加		○	
(7) (【洋図書】)並列版責任表示の追加		○	
(8) 省略形と完全形の書き換え		○	
(9) TRからEDへの転記		○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
ED	(10) NOTEからEDへの転記 (ただし、装丁に関わる特殊な版表示はVOLに転記する)	○	
	(11) データの削除		○
	(12) (【洋図書】)並列版表示の追加	○	
PUB (出版地・出版者)	【子書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字、翻字、字体の書き換え 例：＝→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし、漢字の字体については、転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) 出版地・頒布地、出版者・頒布者、製作地・製作者の追加 (複数の出版物理単位から成る資料で、記述の根拠としなかった巻からの情報を追加してはならない。必要ならばそれらはNOTEに注記する)	○	
	(6) 出版者の省略形と完全形の書き換え	○	
	(7) 同一国内での出版地・頒布地の書き換え		○
	(8) 互いに異なる国での出版地・頒布地の書き換え		○
	(9) (【洋図書】)目録作成機関の母国に関わる記述を行う場合の第2出版地・第2出版者の追加	○	
	(10) NOTEフィールドに記述されているその他の出版事項のPUBフィールドへの転記	○	
	(11) データ要素の削除		○
	【親書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○		
(4) 外字、翻字、字体の書き換え	○		
(5) 出版者の省略形と完全形の書き換え	○		
(6) 終期を予定しないシリーズものに対する、記述の根拠とした巻より前の巻又は初巻に基づく記述の修正	○		
(7) データ要素の削除		○	
PUB (出版年)	(1) 既に記録されている出版年に対する、その記録が任意である著作権取得年の追加	○	
	(2) 不確定のデータに対する、記述対象資料中の主情報源以外のところからのデータ記入	○	
	(3) 著作権取得年による記述に対する、資料のその版での初刷の年の修正		○

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
PUB (出版年)	(4) シリーズ若しくは複数の出版物理単位から成る書誌レコードに対する資料の刊行終了年の追加	○	
	(5) データの削除		○
PHYS	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(3) 記入されていない前付頁等の記述追加	○	
	(4) 記入されていないその他の形態細目の追加	○	
	(5) NOTEフィールドに記録されている付属資料の転記	○	
	(6) データ要素の削除		○
VT	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字の誤りに対する書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす書き換え	○	
	(5) ルビの記入	○	
	(6) ヨミの追加	○	
	(7) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○	
	(8) 不正なタイトルの種類コードの訂正	○	
	(9) 明らかに誤りであるときの分かち書きの訂正 (ただし, 明らかに誤りであるかどうかははっきりしないような場合は, 検索の便を考慮してフィールドを追加して他の可能性のある分かちによるヨミを追加する)	○	
	(10) フィールドの追加	○	
	(11) 重複しているVTフィールドの調整	○	
	※ 原則として明らかに誤りでない限り, データの削除は行わない		
CW	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) ルビの記入	○	
	(6) ヨミの追加	○	
	(7) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
CW	(8) 分かち書きの訂正	○	
	(9) フィールドの追加	○	
	(10) NOTEフィールドに記述されている内容注記のCWフィールドへの転記	○	
	(11) データ要素の一部(又はすべて)をTRフィールド若しくはVOLフィールドに転記 (この結果、書誌の重複が発生した場合には重複書誌レコードの報告を行う)		○
	(12) データの削除		○
NOTE	(1) 資料の特性に関する事項についてはTRの(1)～(4)に同じ	○	
	(2) 初刷の情報源によるデータ修正に伴う、刷の情報の削除	○	
	(3) 版の同一性に関わる注記の訂正		○
	(4) VOL分割に関わる注記の訂正	○	
	(5) 出版物理単位、集合書誌単位に対する、記述の根拠と なかった巻号等についての注記の追加	○	
	(6) PHYSフィールドへ移動された付属資料の物理的事項に関する注記の削除	○	
	(7) (1)～(6)以外の書誌的事項や資料の内容に関わる注記の追加	○	
	(8) (1)～(6)以外の書誌的事項や資料の内容に関わる注記の削除		○
PTBL (親書誌タイトル等)	1) リンク形成の追加 (ただし、親書誌のTRの修正が正しいものであるかどうかは慎重に検討することが必要)	○	
	(2) フィールドの新規追加		○
	(3) 親書誌レコードのリンク先の変更 (ただし、親書誌の重複に伴う付け替えであるときは発見館で修正可)		○
	(4) フィールドの削除		○
	※ 記述の内容自体については、TRの親書誌の項を参照すること		
	※ PTBLフィールドの構造の種類コードについては各参加館の都合によって自由に書き換えてよい		
	PTBL (番号等)	(1) データの新規追加	○
(2) VOLフィールドの追加に伴う書き換え		○	
(3) (2)以外の理由によるデータの書き換え			○
(4) データの削除			○
PTBL (中位の書誌のタイトル等)	(1) データの新規追加 (ただし、責任表示の追加については、それが中位の書誌レベル全体にかかるもののみである)		○
	(2) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(3) (2)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(4) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
PTBL (中位の書誌 のタイトル 等)	(5) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: ニ→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(6) ルビの記入	○	
	(7) ヨミの追加	○	
	(8) 明らかに誤りであるときのヨミの修正	○	
	(9) 分かち書きの修正	○	
	(10) タイトル関連情報の追加	○	
	(11) タイトル関連情報のヨミの追加	○	
	(12) 並列タイトル・並列タイトル関連情報・並列責任表示などの追加	○	
	(13) データの削除		○
PTBL (中位の書誌 の番号等)	(1) データの新規追加	○	
	(2) VOLフィールドの追加に伴う書き換え	○	
	(3) (2)以外の理由によるデータの書き換え	○	
	(4) データの削除		○
AL	(1) 未リンク標目に対するリンク形成	○	
	(2) 未リンク標目の訂正	○	
	(3) リンク先の修正 (典拠レコードのHDNGの修正が正しいものであるかどうかについては慎重に検討することが必要)	○	
	(4) その他の情報の訂正	○	
	(5) 基本記入標目に対する主記入フラグの追加	○	
	(6) 標目のリンク先典拠レコードの変更 (ただし, 典拠レコードの重複に伴う付け替えであるときは発見館で修正可)	○	
	(7) 標目の追加	○	
	(8) 標目の削除		○
	(9) 典拠レコードリンクの解消		○
UTL	(1) 未リンク統一タイトル標目に対するリンク形成	○	
	(2) 未リンク統一タイトル標目の訂正	○	
	(3) リンク先の修正 (典拠レコードのHDNGの修正が正しいものであるかどうかについては慎重に検討することが必要)	○	
	(4) その他の情報の追加・訂正	○	
	(5) 基本記入標目に対する主記入フラグの追加	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
UTL	(6) 標目のリンク先典拠レコードの変更	○	
	(7) 標目の追加	○	
	(8) 標目の削除 (現在NACSIS-CATでは採用されていない種類の統一タイトル典拠(例:法律書・条約集・原タイトル等)を削除する場合は、発見館で修正可)	○	
	(9) 典拠レコードリンクの解消		○
CLS	(1) 異なる分類表に基づく分類標目の追加	○	
	(2) 目録対象資料の主題を適切に表現するために必要な重出分類の追加	○	
	(3) コード表又は分類表に照らして明らかに誤りである分類の種類コード又は分類標目の訂正	○	
	※ 明らかに誤りである場合を除いては、原則としてデータ、標目の削除は行ってはならない		
SH	(1) 異なる件名標目表に基づく件名標目の追加	○	
	(2) 目録対象資料の主題を適切に表現するために必要な件名標目の追加	○	
	(3) コード表又は件名標目表に照らして明らかに誤りである件名標目表の種類コード又は件名標目の訂正	○	
	(4) 更新された件名標目の新しい標目形への訂正	○	
	※ 明らかに誤りである場合を除いては、原則としてデータ、標目の削除は行ってはならない		

5 書誌データの品質管理

5.1 目的

この変更は、業務の軽量化を図りつつ、利用への影響を最小限に抑えるためのものです。

5.2 対象範囲

2020年4月1日以降の書誌データの品質管理に適用します。

5.3 概要

書誌データの新規登録・修正の区分の変更に伴い、参加館同士でのレコード調整は廃止します（4. 書誌データの新規登録・修正参照）。

同一の資料に対する複数の書誌の存在を許容するため、並立書誌は統合しません。重複書誌と判断されたものはNIIで書誌の統合を行います。

5.4 参加館同士でのレコード調整の廃止

書誌データの新規登録・修正の区分の変更に伴い、参加館同士でのレコード調整は廃止します。

《解説》

書誌データの新規登録・修正の区分の変更に伴い、発見館修正可の項目は、書誌作成館へ現物の確認を依頼することなく、書誌データを修正してください。他の所蔵館への連絡は必要ありません。

発見館修正不可の項目に該当する場合は、新規書誌を作成してください。

5.5 書誌データの統合

5.5.1 並立書誌は、NACSIS-CATの業務システム上では、書誌の統合を行いません。

5.5.2 重複書誌は、NIIが統合処理します。

5.5.3 和漢古書等の記述対象資料毎に書誌データを作成するものについては、書誌の統合は行いません（これまでと変更はありません）。

《解説》

修正不可の項目の異同によって、新規書誌を作成した場合は、同一資料に対して複数の書誌が存在することになりますが、これは並立書誌として存在を許容し、書誌の統合は行いません。

並立書誌の例

- 2020年3月31日以前に登録された複数のVOLグループを持つ書誌データと、2020年4月1日以降に出版物理単位で新しく作成した書誌データ
- 続巻が刊行されたことで、タイトルの一部がシリーズと見なされることになったため、書誌構造を持つ形で新しく作成された書誌データと、当初に作成されていた書誌データ
- ページ数のゆれにより作成された書誌データ（最初に作成された書誌の記述誤りの可能性も含む）

新規書誌作成の基準に照らし、書誌の内容に全く異なる点が見られない書誌は、重複書誌として、NII が統合処理を行います。また、参加館からの重複報告は、これまでどおり受け付け、内容確認の上、NII が統合処理を行います。NII によって統合された結果は、NII からの書誌データ調整連絡の対象になります。

和漢古書等の記述対象資料毎に書誌データを作成するものについては、これまでと同様、統合処理は行いません。

5.6 NII からの書誌データ調整連絡（旧レコード調整連絡）

NII からの書誌データ調整連絡については、当分の間、継続します。

《解説》

重複書誌の統合による所蔵付け替え等、NII からの書誌データ調整連絡については、当分の間、継続します。

6 書誌構造リンク形成

6.1 目的

子書誌データと親書誌データ間の書誌構造リンク形成作業を必須から任意化し、書誌作成作業を軽減します。

6.2 対象範囲

2020年4月1日以降に図書書誌データセットに登録されるすべての書誌データを対象とします。

6.3 概要

書誌構造リンク形成作業を任意化します。また、バランスしない書誌構造は廃止します。なお、手動によるリンク形成機能は継続して提供します。

6.4 書誌構造の表現

6.4.1 2階層の書誌構造を持つ資料の場合

2階層の書誌構造を持つ資料の場合、出版物理単位（子書誌）の書誌データに、集合書誌単位（親書誌データ）のタイトルを記録します。

6.4.1.1 書誌構造リンクを形成しない場合

親書誌とのリンク形成を行わず、PTBLに子書誌に表示されたシリーズタイトルを記述します。

TR: ルネサンス / 鈴木勤編

PTBL: 世界歴史シリーズ||セカイ レキシ シリーズ < > 第11巻//a

別言語形など、親書誌データの「その他のタイトル」に相当するタイトルを記録する必要があるときは、子書誌データのPTBLフィールドを繰り返して記録します。

TR: ヒンディー語動詞基礎語彙集 / 町田和彦著

PTBL: アジア・アフリカ基礎語彙集シリーズ||アジア アフリカ キソ ゴイシュウ シリーズ < > 33//a

PTBL: Asian & African lexicon < > 33//a

6.4.1.2 書誌構造リンクを形成する場合

従来どおり親書誌を作成し、リンクを形成することもできます。

6.4.2 3階層以上の書誌構造を持つ資料の場合

3階層以上の書誌構造を持つ資料の場合、出版物理単位（子書誌）の書誌データに、集

合書誌単位（親書誌）のタイトルを記録したのち、中位の書誌のタイトル等を記録します。

6.4.2.1 書誌構造リンクを形成しない場合

親書誌とのリンク形成を行わず、PTBLに子書誌に表示されたシリーズタイトル等

TR: 古典派の音楽 / フリードリヒ・ブルーム著 PTBL: 白水 U ブックス ハクスイ U ブックス <> 1025 . 西洋音楽史 / フリードリヒ・ブルーム [著] セイヨウ オンガクシ ; 4//ab
--

6.4.2.2 書誌構造リンクを形成する場合

従来どおり親書誌を作成し、リンクを形成することもできます。

6.4.3 バランスしない書誌構造を持つ資料の場合

バランスしない書誌構造は廃止します。2020年4月1日以降、VOLフィールドが記録され、それに対応する所蔵データが登録された書誌データは、親書誌データとはみなしませんただし、すでにバランスしない書誌構造を持つ書誌データを親書誌としてリンク形成されている書誌構造リンクは、このリンク関係を解消する必要はありません。書誌構造リンクを形成する場合は、VOLフィールドが記録されたバランスしない書誌構造をもつ書誌データとは別に、新しく親書誌データを作成して書誌構造リンクを形成します（登録例③参照）。

続刊が発刊されたことにより、タイトルの一部が集合書誌単位（親書誌）のタイトルとみなされる場合も、所蔵データが登録された既存書誌データは、親書誌データとみなしません。リンク形成を行う場合は、別に親書誌データを作成して、書誌構造リンクを形成します（登録例④参照）。

登録例③ バランスしない書誌との書誌構造リンクは不可の例

同じシリーズの別の資料を新しく登録する場合

<親書誌>

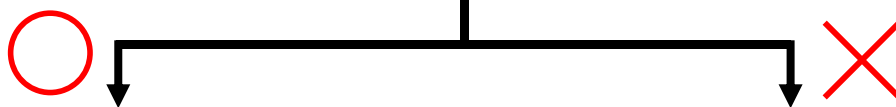
NCID : BN12345678
 VOL : 年表・付図 ISBN : 9784766416417
 TR : オックスフォードブリテン諸島の歴史
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 ,
 2009.6-
 PHYS: 冊 ; 22cm

バランスしない書誌構造を持つ書誌
 (2020年以前作成)

<子書誌>

NCID : BN12349988
 VOL : ISBN : 9784766416428
 TR : ポスト・ローマ / トマス・チャールズ=エドワーズ
 編
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2015.9
 PHYS: 189p : 挿図 ; 22cm
 PTBL: オックスフォードブリテン諸島の歴史 || オック
 スフォード ブリテン ショトウ ノ レキシ
 <BA12345678> 第2巻// b

2020年以前作成のものはバランスしない書
 誌とリンク形成してよい。



バランスしない書誌とはリンク形成を行わず、
 新しく親書誌を作成する

バランスしない書誌への親書誌リンクは禁止

NCID : BC11112233
 VOL : ISBN : 9784766416569
 TR : 20世紀 : 戦後の歴史 / キャスリーン・バーク
 編
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2020.9
 PHYS: 462p : 挿図 ; 22cm
 PTBL: オックスフォードブリテン諸島の歴史 || オック
 スフォード ブリテン ショトウ ノ レキシ
 <BC11112345> 第10巻// b

書誌構造リンクを形成する場合は新しく
 親書誌を作成する

NCID : BC11112233
 VOL : ISBN : 9784766416569
 TR : 20世紀 : 戦後の歴史 / キャスリーン・バーク
 編
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2020.9
 PHYS: 462p : 挿図 ; 22cm
 PTBL: オックスフォードブリテン諸島の歴史 || オック
 スフォード ブリテン ショトウ ノ レキシ
 <BA12345678> 第10巻// b




NCID : BC11112345
VOL:
 TR : オックスフォードブリテン諸島の歴史
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 ,
 2009.6-

登録例④ 続巻が出たことでタイトルの一部が親書誌タイトルとみなされる例

<既存書誌>

NCID : BA99887654
 VOL : ISBN : 9784104752065
 TR : 紳士協定 : 私のイギリス物語 / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2012.3
 PHYS:315p ; 22cm

<続刊が発刊されたことでタイトルの一部が集合書誌単位 (親書誌) のタイトルとみなされる場合>

<子書誌> 

続巻は、書誌構造リンクを持つ書誌を作成

NCID : BC12229977
 VOL : ISBN : 9784104752089
 TR : 亡命者の古書店 / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2020.9
 PHYS:299p ; 22cm
 PTBL:私のイギリス物語||ワタクシ ノ イギリス モノ
 ガタリ <BA122228866> 続// b

NCID : BC12229988
 VOL : ISBN : 9784104752065
 TR : 紳士協定 / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2012.3
 PHYS:315p ; 22cm
 PTBL:私のイギリス物語||ワタクシ ノ イギリス モノ
 ガタリ <BA122228866> [正] // b

<親書誌>

親書誌を作成

NCID : BA122228866
 VOL : ISBN :
 TR : 私のイギリス物語 / 佐藤優著||ワタクシ ノ
 イギリス モノガタリ
 PUB:東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2012-3-
 2020.9
 PHYS:2 冊 ; 22cm

←先に出版された巻号について、書誌構造リンクをもつ書誌を新しく作成してもよい。(既存書誌と並立書誌となる。)



既存書誌を修正して、新しくリンク形成をしてはならない。

NCID : BA99887654
 VOL : ISBN : 9784104752065
 TR : 紳士協定 _____ / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2012.3
 PHYS:315p ; 22cm
 PTBL:私のイギリス物語||ワタクシ ノ イギリス モノ
 ガタリ <BA122228866> [正] // b

7 所蔵登録

図書所蔵データの運用は、これまでの運用と変更はありません。書誌の作成単位と齟齬のないよう留意してください。

8 著者名典拠データと書誌データの自動リンク形成

8.1 目的

外部機関作成書誌データおよび NACSIS-CAT の著者名典拠データセットに含まれる典拠情報を活用して、NACSIS-CAT 著者名典拠データと書誌データとのリンク形成作業を自動化することにより、書誌作成機能のさらなる合理化を行います。なお、この処理はサーバー側で自動的に行われるため、目録担当者が作業する必要はありません。

8.2 対象範囲

2020 年 4 月 1 日以降に PREBOOK に登録されるシステム登録書誌データのみを対象とします。

BOOK および参照データセットに存在する書誌データは対象外とします。2020 年 4 月 1 日以降に新規に作成される参加館登録書誌データも対象外となります。

8.3 概要

8.3.1 PREBOOK への登録対象となる外部機関作成書誌データをシステム登録書誌データとして登録する際に、外部機関作成著者名典拠 ID を含む書誌データを抽出します。

8.3.2 バーチャル国際典拠ファイル (Virtual International Authority File : VIAF) に登録された外部機関著者名典拠 ID と照合し、VIAF 上で同一の典拠データとして同定されている NACSIS-CAT 著者名典拠 ID を取得します。

8.3.3 VIAF での照合結果をもとに、PREBOOK の書誌データと NACSIS-CAT 著者名典拠データとのリンク形成処理を行います。

《解説》

著者名典拠の同定の精度を高めるため、以下の条件を満たす外部機関作成書誌データから作成される書誌データが自動リンクの対象となります。

- PREBOOK 登録対象の外部機関作成書誌データであること
- 外部機関作成書誌データに著者名典拠 ID の情報が含まれていること
- 外部機関作成著者名典拠 ID が VIAF に登録されていること
- NACSIS-CAT 著者名典拠データが存在し VIAF に登録されていること

上記以外のシステム登録書誌データや参加館登録書誌データについては、自動リンクの対象とはなりません。必要に応じて、手動で著者名典拠データとのリンクを形成してください。

8.4 その他

PREBOOK において、明らかに異なる著者名典拠データとリンクしている書誌データを発見した場合は、NII に報告してください。発見館からの報告を受けて、内容を確認の上、NII 側で典拠データリンクの解消等の対応を行うとともに、自動リンクの精度向上に努めます。

9 並立書誌の関連付け

9.1 目的

書誌管理作業の軽量化のために存在を許容する並立書誌について、機械処理により相互に関連付けることで、NACSIS-ILL等の書誌利用におけるユーザビリティを担保します。

9.2 対象範囲

BOOKにある書誌データを対象とします。ただし、2020年3月31日以前に登録された書誌同士の関連付けは行いません。

9.3 概要

BOOKにおいて書誌データを登録または更新する際、別途定める並立書誌判定ルールを用いて当該書誌データの並立書誌を判定し、並立書誌同士と判定された書誌IDをRELATIONテーブルに登録します。NACSIS-ILLやCiNii Books等の書誌利用においてRELATIONテーブルを活用することで、並立書誌データ同士をグループ化した形や関連付けた形で表示することができます。

《解説》

参加館同士でのレコード調整廃止に伴い、並立書誌データが増えることが予想され、ILL業務の際に書誌同定に負担がかかるのではないかと懸念されていました。RELATIONテーブルは、それへの対策となります。

RELATIONテーブルは雑誌の変遷マップと同様の概念で、書誌の統合は行いません。また参加館からの報告を受けて書誌データ同士の関連をRELATIONテーブルに反映する方法も準備する予定です。

NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（用語集）_改訂版（2018年10月xx日）

※用語の五十音順に掲載しています。

※定義は、「これからの学術情報システム構築検討委員会」による、NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化の議論の中での語の使い方を示しています。

No.	用語	定義
1	BOOKデータセット	現行のNACSIS-CAT 図書書誌ファイル（BOOK）。PREBOOKデータセット（参照：用語集2）とともに、2020年4月以降の図書書誌データセット（参照：用語集34）を構成する。システム登録書誌データ（参照：用語集18）のうち、所蔵が登録された書誌データの登録先となる。
2	PREBOOKデータセット	システム登録書誌データ（参照：用語集18）のうち、所蔵が登録されていない書誌データのデータセット。ILLなど、書誌利用時には非表示となる。
3	RELATIONテーブル	自動同定（参照：用語集21）の結果得られた、グループとしてのまとまりを管理するためのテーブル。
4	VIAF	The Virtual International Authority Fileの略。 OCLCが維持管理する、複数の国立図書館と地域的、国際的図書館関係機関による共同プロジェクト。典拠ファイルをマッチングおよびリンクをし、ウェブ上で利用可能な情報を作成している。 (https://viaf.org/ 2018/3/26閲覧)
5	Z39.50接続	NACSIS-CAT上にデータが蓄積されている通常の参照ファイルと異なり、Z39.50プロトコルを利用した接続。参加館が検索する都度、外部機関が提供するサーバへ接続してデータを取得し、利用している。NACSIS-CAT固有の書誌IDが無く、検索のたびに書誌IDが変わる。
6	外部機関作成データ	NACSIS-CAT以外の機関が作成した書誌データ、著者名典拠データ、統一書名典拠データ。 (詳細: http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3_1.html 2018/3/26閲覧)
7	機械処理性	人的作業ではなく、最新の技術を用いて機械的に処理する作業の効率性。
8	既存情報源	出版社や外部書誌作成機関などNACSIS-CAT以外の情報源。
9	既存書誌データ	新規登録、修正等の作業時に、図書書誌データセット（参照：用語集34）中にすでに存在する書誌データ。
10	軽量化	図書館の書誌作成・管理作業や、利用者の書誌利用環境を最適化し、効率化すること。
11	現行分参照MARC	2020年3月31日まで参照ファイルとして提供されていた外部機関作成データ。
12	合理化	機械処理への移行、外部との連携強化など、現在の技術に適応したシステムの再設計のこと。
13	コピー	一般的な複製の意。現行NACSIS-CAT内での「COPY」の範囲に留まらない。
14	参加館登録書誌データ	2020年度以降に、新規登録やコピー（参照：用語集13）による登録により参加館が作成する書誌データ。

No.	用語	定義
15	参照データセット	外部機関作成データ(参照:用語集6)のうち、目録システム用にMARCを変換したデータセット。現行のNACSIS-CATにおける「参照ファイル」。
16	システム追記	外部機関作成データ(参照:用語集6)のシステム登録(参照:用語集17)時に、OTHN, NBN, LCCN, GPON, SH, CLNの各項目について、文字列完全一致で比較し、同じものがなければフィールドを追加し、データを記入すること。
17	システム登録	外部機関作成データ(参照:用語集6)を、図書書誌データセット(参照:用語集34)や著者名典拠データセット(参照:用語集28)にあらかじめ機械的に登録すること。
18	システム登録書誌データ	外部機関作成データ(参照:用語集6)のうち、図書書誌データセット(参照:用語集34)にあらかじめ機械的に登録された書誌データ。このうち所蔵が登録されたシステム登録書誌データは、BOOKデータセット(参照:用語集1)に登録され、所蔵が登録されていないシステム登録書誌データは、PREBOOKデータセット(参照:用語集2)に登録される。
19	システム登録における事前処理	外部機関作成データ(参照:用語集6)を、図書書誌データセット(参照:用語集34)にあらかじめ機械的に登録する際に行うクリーニング(フィルタリング,システム追記(参照:用語集16))処理。
20	自動所蔵登録	各図書館等の所蔵データを自動的に登録するシステムを用いて、参加館の所蔵レコードを一括登録・更新すること。
21	自動同定	タイトルや出版社など、データの主たる項目を比較し、同一資料を表現していると判断されるものについて、グループとしてのまとまりを作る機能。グループとしてのまとまりは、RELATIONテーブル(参照:用語集3)を用いて管理する。
22	自動リンク	人的作業ではなく、ID等によって機械的にリンク形成作業を行うこと。
23	書誌構造リンク	シリーズ名などの書誌階層がある場合の、親書誌データと子書誌データのデータ間リンクのこと。
24	書誌作成システム	現行のNACSIS-CATなど、書誌を作成するために必要なシステム。また作成の仕組み。
25	書誌利用システム	現行のNACSIS-ILLやCiNii Booksなど、書誌作成システムで作成された書誌データを利用するシステム。また利用の仕組み。
26	相互運用	外部機関作成書誌データをNACSIS-CATで活用すること。また、NACSIS-CATで作成したデータが外部機関で活用されること。
27	重複書誌データ	同一資料に対して複数作成された書誌データ。書誌の同定に必要な項目が全く同一であり、統合(参照:用語集33)の対象となる。
28	著者名典拠データセット	現行の著者名典拠ファイル(NAME)。

No.	用語	定義
29	データ	現行の「レコード」。例) 図書書誌レコード→図書書誌データ
30	データセット	現行の「ファイル」。例) 著者名典拠ファイル→著者名典拠データセット
31	データベースフィールド定義	データを入力する際のフィールド名やフィールド内でのデータの扱い方, 入力方法, 計算方法, 保存方法, 表示方法などのこと。
32	統一書名典拠データセット	現行の統一書名典拠ファイル (TITLE)。
33	統合	重複書誌データ (参照: 用語集27) を一つにすること。
34	図書書誌データセット	現行のNACSIS-CAT 図書書誌ファイル (BOOK) に, PREBOOKデータセット (参照: 用語集2) を加えたデータセット。2020年4月以降の図書書誌データセットには, 2020年3月31日までに登録された書誌データ, システム登録書誌データ (参照: 用語集18), 参加館登録書誌データ (参照: 用語集14) が含まれる。
35	フィールド	現行の「フィールド」。用語を変更しない。
36	並立書誌データ	同一資料に対して複数作成された書誌データ。2020年3月31日までの基準において, 「作成館との協議事項」に該当する書誌事項の相違などが存在するため, 統合 (参照: 用語集33) の対象とならない。 (参照: http://catdoc.nii.ac.jp/MAN2/CM/21_1.html 2018/9/20閲覧)
37	メソッド等	CATP内で使用する「GETHANDLE」, 「SEARCH」などのこと。

2018 年 10 月 15 日
国立情報学研究所

2020 年以降の目録所在情報システム（CAT2020）テスト運用について

これからの学術情報システム構築検討委員会が 2018 年 10 月〇日付で公開しました「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（最終まとめ）」の内容に従い、国立情報学研究所（以下、NII）では、2020 年度以降に CAT2020 の運用を開始いたします。

これに先立ち、以下のとおり CAT2020 のテスト運用を実施いたします。参加館のみなさまには、CAT2020 のテスト運用にご協力をいただけますようお願いいたします。

CAT2020 に関するスケジュールについては、別紙「CAT2020 に向けた全体スケジュール」をご参照ください。

1. テスト運用期間

2019 年 5 月～2020 年 2 月末

2. テスト環境

現行の教育用サーバと同等程度の環境を提供予定です。具体的な接続先 URL 等は、準備が整い次第別途 NII より通知いたします。

(ア) WebUIP

テスト運用開始までに CAT2020 に対応した WebUIP を NII が用意いたします。

(イ) 図書館システム

別途実施する図書館システムベンダー向けの接続テストおよびシステム改修完了後、図書館システムを通じた操作テストを希望する参加館は、図書館システムベンダーと調整し、テストを実施していただきます。

3. テスト内容

PREBOOK や RELATION 等、新規機能を含めて、目録・ILL 業務が問題なく継続できるかを確認していただきます。

4. テスト後のフィードバック等

テスト運用開始後、テスト運用に関する問合せ窓口を設置します。問合せ窓口に寄せられたフィードバックの内容の一部について、2019 年 10 月以降に追加改修を実施します。

CAT2020 に向けた全体スケジュール

		2018年度					2019年度													
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
システム改修 (NII)	CAT2020全体 (WebUIを含む)	→																		
	CAT2020 フィードバックに基づく改修													- - - - - →						
テスト運用	参加館向けの操作テスト (WebUI)								→											
	参加館向けの操作テスト (図書館システム)																			
	ベンダー向けの接続テスト								→											
資料・マニュアル類	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・ 合理化について (最終まとめ)	公開																		
	クライアント作成のための技術 資料・補足	公開																		
	セルフラーニング教材・補足							公開												
	目録情報の基準・第5版																			
	コーディングマニュアル・改訂																			
	関連マニュアル																			
説明会等	CAT2020説明会 /セルフラーニング								→											
	CAT2020問合せ窓口																			

改修のためのフィードバック期限

2018 年 10 月 15 日
電子リソースデータ共有作業部会

2018 年度上半期活動報告

1. 課題

電子リソースの利用促進について、以下 3 点に取り組む。

(平成 30 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画より)

電子リソースの管理基盤・ワークフローの構築

- ・ 電子ブック等のメタデータの体系的な整備
- ・ 国内刊行電子リソースのナレッジベース (ERDB-JP) について、自律的なコンテンツ維持管理体制の整備
- ・ 持続的な電子リソース管理・提供基盤形成に向けた国際連携

2. 活動状況

(ア) 電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築および電子ブック等のメタデータの体系的な整備についての検討

- ① 2017 年度における図書館サービスプラットフォーム (LSP) のひとつである Ex Libris 社の Alma 業務検証を踏まえ、実運用時における、さらなる課題の洗い出しを進めるため、JUSTICE 事務局および複数の JUSTICE 参加機関と協同で、実際に共有すべきデータ (ライセンス項目、タイトルリスト) を利用する形で LSP のテスト運用を実施中である。
- ② 電子ブックに関して、そのメタデータの効率的な共有と流通を推進するため、その書誌フォーマットやデータ交換形式について検討を行っている。
- ③ 英国の JISC、フランスの ABES など統合的発見環境の基盤として導入されている、OCLC の中央書誌システム (CBS / Central Bibliographic System) について、電子リソース共有の側面から調査を行った。

(イ) ERDB-JP の整備

- ① 持続可能性を高め、自律的運用を担保するためのパートナー拡大に向けた施策を立案し、実行する
 - 1) JAIRO Cloud への既存の参加館に対しては、ERDB-JP のパートナーとなることの利点を改めて周知するため、サンメディア主催「学術情報ソリューションセミナー」で 4 回の講演を行ったほか、図書館総合展のフォーラムおよびブースにて広報を行う予定である。
サンメディア主催「学術情報ソリューションセミナー」

- ・ 場所・日時：大阪（6月27日（火））・東京（6月30日（金））・札幌（7月21日（金））福岡（7月28日（金））

図書館総合展

- ・ 場所・日時：横浜（パシフィコ横浜） 10月31日（水）

2) JAIRO Cloud 以外のプラットフォームにより、機関リポジトリを構築している機関に対しては、自動連携に関する手順書を作成し公開した。

- ② 2018年10月1日現在のパートナー機関数は75機関(パートナーA:55機関、パートナーB:20機関)となっている。

(ウ) 国際連携の推進

- ① 国際的なカンファレンスに参加することで、電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築、および電子ブック等のメタデータの体系的な整備に資するような各種の最新動向を調査した。
- ② IGeLU および GBV（独国のコンソーシアム）の視察
- ・ 視察概要：Ex Libris 社主催 IGeLU では Alma をはじめとしたサービスの最新動向の調査を行い、GBV では OCLC CBS を用いて運用を行っている総合目録サービスについて情報・意見交換を行った。
 - ・ 日時：2018年8月17日（金）～23日（木）
 - ・ 視察者：飯野委員、片岡係長
- ③ JISC（英国のコンソーシアム）および Abes（仏国のコンソーシアム）の視察
- ・ 視察概要：JISC では OCLC CBS を用いて現在構築を進めている新しい総合目録サービス NBK について、Abes では OCLC CBS を用いて運用を行っている総合目録サービス Sudoc について、情報・意見交換を行った。
 - ・ 日時：2018年9月17日（月）・18日（火）
 - ・ 視察者：末田委員、上野係長

(エ) 広報・普及活動

LSP の運用を通じて JUSTICE 事務局との連携を深めることで、JUSTICE 参加館に対しても、本作業部会の活動への理解、協力を得られるような環境を構築する。

(オ) 作業部会の開催

計2回の作業部会を開催しており、2018年度内に第19回の開催を予定している。

第17回 2018年6月1日（木）

第18回 2018年7月24日（火）・25日（水）

以上

2018 年 10 月 15 日
NACSIS-CAT 検討作業部会

2018 年度上半期活動報告

1. 課題

NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について、以下 3 点に取り組む。

- (ア) 検討結果として作成した提案文書について、参加館・ベンダーその他関係者からの意見募集の場を設ける。
- (イ) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）」を詳細化する。
- (ウ) 検討状況について、定期的に参加館・ベンダーその他関係者との情報共有の場を設ける。

2. 活動状況

(ア) 「NACSIS-CAT-ILL の軽量化・合理化について（最終まとめ）」の検討

昨年度から作成作業を進めてきたが、第 20 回および第 21 回これからの学術情報システム構築検討委員会での議論を踏まえて、文書の修正を行い、公開準備を進める。

(イ) イベントでの報告等

- ・ 第 20 回図書館総合展

(ウ) 講師派遣

リコー社主催「図書館システム LIMEDIO セミナー」に講師 1 名を派遣し、「目録システム書誌作成研修」へ講師 1 名の派遣を予定している。

3. 作業部会の開催

計 1 回の作業部会を開催しており、10 月 15 日（月）に第 22 回の開催を予定している。

第 21 回 2018 年 5 月 30 日（水）

以上

2018年10月15日
国立情報学研究所

第20回図書館総合展について

1. フォーラム「これからの学術情報システムの在り方：2020 とその先へ」

(1) フォーラム概要

- ・ 場所：パシフィコ横浜 第1会場
- ・ 日時：10月31日（水） 10：00～11：30

(2) フォーラムの構成

登壇者	時間	発表内容
小山委員長	15分	「これからの学術情報システムの在り方について」の改訂に関する議論について
飯野委員	15分	電子リソース管理システムの利用可能性の検証と JAIRO Cloud/ERDB-JP 連携について
藤井作業部会委員	20分	2020年以降の目録所在情報システム (CAT2020) について (仮)
上野	10分	CAT2020 のテスト運用等のスケジュールについて
質疑応答	30分	

* 司会：国立情報学研究所 上野

(3) 発表資料等について

- ・ 発表資料は、当日に印刷して配布はせず、ウェブ公開のみとする。
- ・ 動画撮影および配信を行う。

2. ブース出展

(1) ブース概要

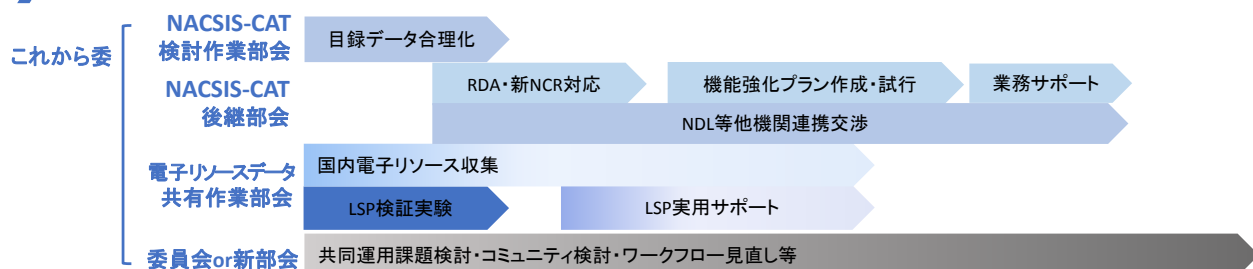
JAIRO Cloud/ERDB-JP 連携の概要を説明したパネルを作成する。

(2) コアタイムプレゼン

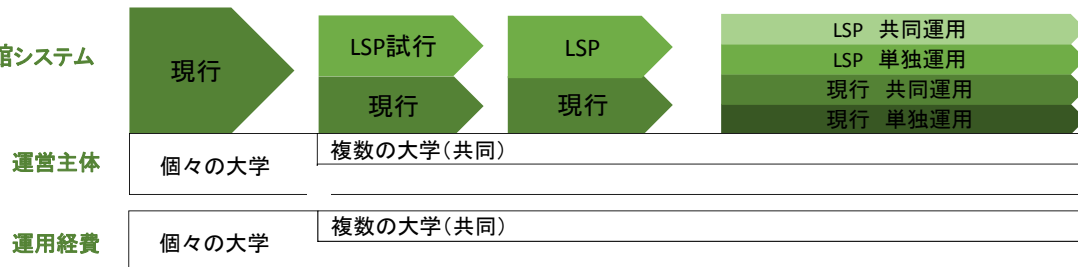
- ・ コアタイム：11:45～12:45、14:45～15:15
- ・ プレゼンの内容：ERDB-JP：JAIRO Cloud 連携のプロモーション等
- ・ 担当者：北山氏（鹿児島大学、電子リソースデータ共有作業部会委員）、川畑氏（奈良県立図書館情報館、電子リソースデータ共有作業部会委員）、事務局

以上

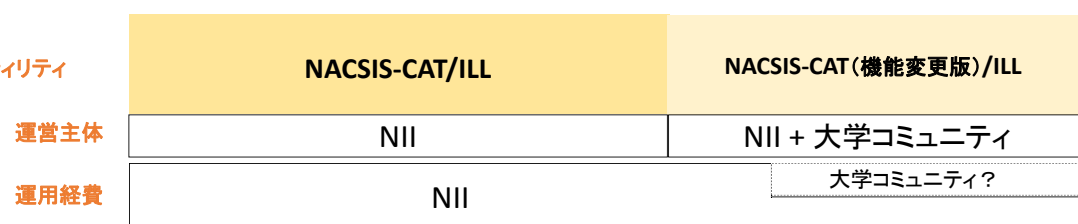
検討体制



大学図書館システム



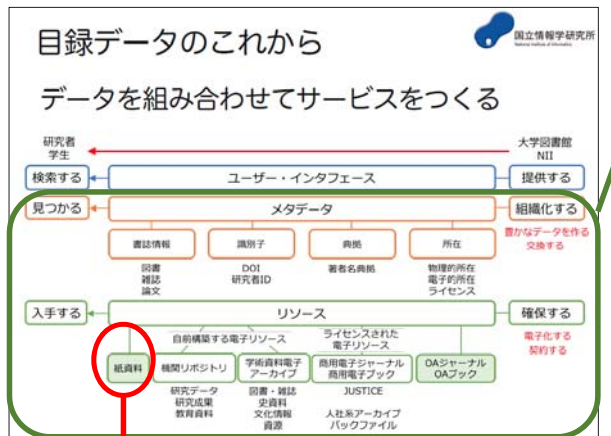
書誌ユーティリティ



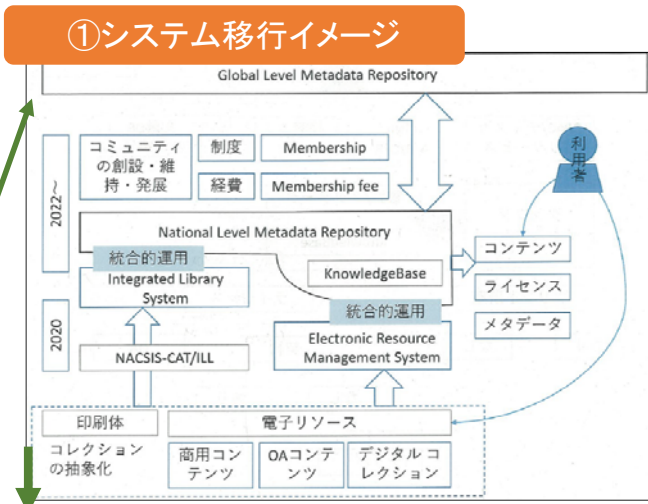
2018 → 2020 → 202X

これまでの議論の整理

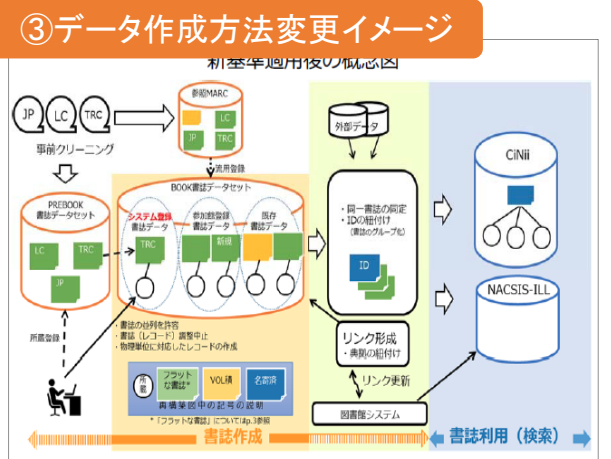
- 目録データのこれから
 - ① システム移行のイメージ
 - ② システム共同運用のイメージ
 - ③ データ作成方法変更のイメージ
- 統合的発見環境の実現のために
 - つなげるためのデータの整備
 - 共同システム運用への挑戦
 - 運用体制の構築



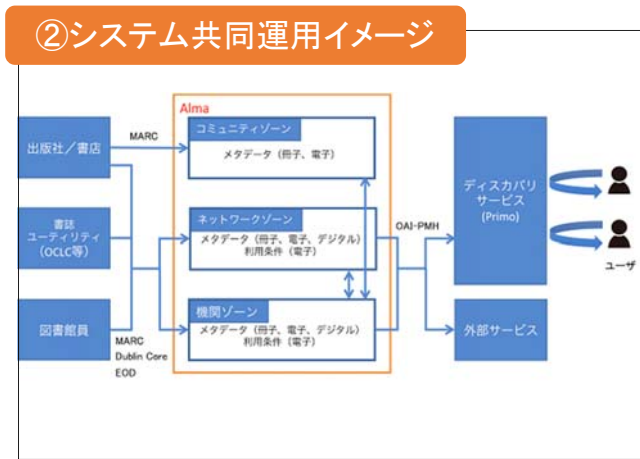
出典: 大向一輝「情報システムとしてのNACSIS-CAT/ILLの課題と展望」.NIIオープンフォーラム2016)



出典: 第18回これからの学術情報構築検討委員会 机上配布資料No.4



出典: NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(実施方針)からの変更について, 2018

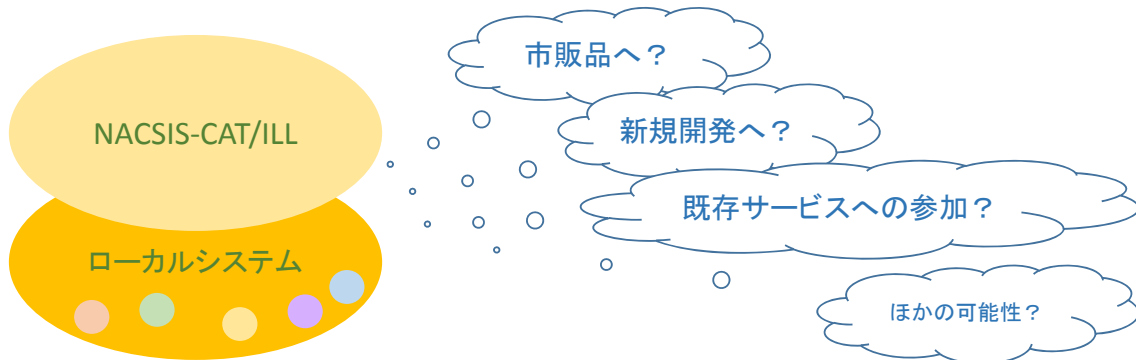


出典: 上野、香川、片岡、共同運用による図書館システム導入の新たな可能性, CA1869, 2017

①システム移行イメージ

移行を明確に目指す場合

- ・それを旨とするの表明＝各方面への協力依頼
- ・費用面の調査(現在と移行後)
- ・ローカルシステムの移行実現可能性の調査
- ・既存ベンダーとの関係
- ・市販品への移行以外の選択肢の有無確認(大学側の意向)



検討:これから委+国大図協・学術情報システム委+

②システム共同運用イメージ

市販品の場合(Almaを例に)

メリット	<ul style="list-style-type: none">・NACSIS-CAT/ILLの代替となる市販品・個々の館のシステム運用にかかる負担軽減・海外との連携が容易
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・個々の館の要望への対応が難しい・運用体制の新規構築が必要・価格交渉への懸念(移行できない館も?)

それ以外の選択肢

- ・OCLC WorldShare Management Services(WMS)
- ・NACSIS-CAT/ILLの継続(NIIから別の機関への移譲?)
- ・ベンダー毎の独自コンソーシアム
- ・NDLを中心としたネットワークへの参加(MARC入手、ILL)
- ・既存のサービスのみ活用(全体のNWからの離脱)

大学によって選ぶ道が異なる可能性

検討:これから委+国大図協・学術情報システム委+

③データ作成方法の変更

◆目指すかたち

- ・外部データ(書誌・画像・テキスト等)とIDで対応できること
- ・メタデータを外部との連携を意識して付与すること
- ・人的な手間を削減するワークフローの提案
→ 品質に対する新たな考え方

対データ

対業務量

2020年までに実現予定

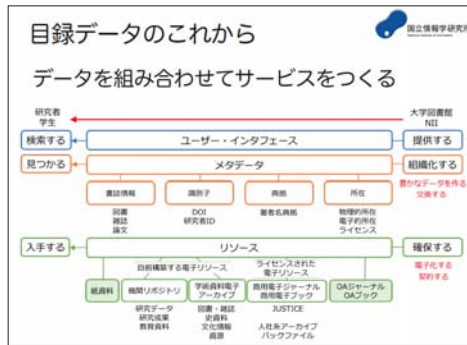
- ・VOL積みの中止(対データ)
- ・リンクの非必須化(対データ・対業務量)
- ・書誌調整の廃止(並立書誌の考え方)(対業務量)

それ以降に向けて準備が必要なこと

- ・今後必要となるメタデータの選定(追加・置換)(対データ)
- ・データ入力方法の自動化(書店からのデータ活用)(対業務量)
- ・データ関連付けの自動化(現リンクを関連指示子に置換?)(対データ・対業務量)
- ・(ローカル)発注・受入から目録までの業務フロー見直し(例えばAlmaなら?)

検討:NACSIS-CAT検討作業部会+?→

統合的発見環境の実現のために



つなげるためのデータの整備

- ・CATデータ作成方針の変更(CAT部会)
- ・ERDB-JPの構築(ERDB部会)
(・JPCOARによる活動)(・JUSTICEによる活動)

共同システム運用への挑戦

- ・NACISIS-CAT/ILLの枠組みから次の段階へ
- ・LSP共同導入可能性の検討(ERDB部会)

運用体制の構築

- ・NII主導から図書館側でのコミュニティ設立
(これから委)

外部とのデータ連携環境を整えることで、いっそうのデータ活用が期待できる

これまで見つからなかったデータまでつなげることが可能に

※ユーザーインターフェイス部分は直接の検討対象とはしない

2018 年 6 月 11 日
国立情報学研究所

今後目指すべき学術情報基盤の在り方（補足資料）

－ 国立情報学研究所における検討状況 －

1. 概要

国立情報学研究所は、NACSIS-CAT/ILL の次期システムに向けた検討を進める中で、目録所在情報サービスの要件として理念の再考、目録作業の簡略化による全体コストの低減、図書館の学術情報提供の支援、システム再構築を検討のポイントとしてきた。

NACSIS-CAT/ILL 再構築に関して、2022 年 4 月の NACSIS-CAT/ILL システム更新に向け、システムの軽量化・合理化と電子への対応の 2 つの方向性で検討・整備を進めてきた。

システムの軽量化・合理化については、NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドラインの改定（CAT2020）に伴う現行システムの改修とともに、コスト低減のため、代替となりうるシステムの調査・検証を進めている。また、電子リソースへの対応については、電子リソースデータ共有作業部会が進める「電子リソース管理システムの利用可能性の検証」に参加し、JUSTICE 事務局等による一元的なシステム提供が必要な事項の洗い出しを行っている。

今後、電子リソースへの対応範囲および費用負担について方針を決定する必要がある。

2. 検討状況

(ア) CAT/ILL の軽量化・合理化への対応

- ① NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドラインの改定（CAT2020）に伴う現行システムの改修
 1. 外部 MARC のシステム登録（PREBOOK）・VOL 積み禁止機能の開発（2017 年度）
 2. ILL での名寄せ機能（RELATION）の開発検証（2018 年度）
- ② 代替となりうるシステムの調査・検証
 1. Ex Libris 社 Alma
 - ・ API を利用した CATP クライアント接続検証（BOOK/SERIAL/BHOLD/SHOLD）（2017 年度）
 - ・ API を利用した CATP クライアント接続検証（NAME/TITLE/MEMBER 等および ILL）（2018 年度）
 2. OCLC CBS
 - ・ NACSIS-CAT/ILL 運用モデル検討（2017 年度）
 - ・ CBS-CAT 機能比較、コスト・運用に関する調査（2018 年度）

(イ) 電子リソースへの対応（電子リソースデータ共有作業部会による検討）

- ① JUSTICE 事務局等による一元的なシステム提供に必要な事項の洗い出し
 1. JUSTICE 提案製品の利用条件／タイトルリストのデータ化（2017 年度）
 2. Ex Libris 社 Alma へのデータ登録（2017 年度）
 3. ローカルシステムと連携した業務フロー確認（2018 年度）

3. スケジュール（暫定）

- ① 2017 年度 次期 CAT/ILL 導入方針の検討
- ② 2018 年度 次期 CAT/ILL 導入方針の決定
- ③ 2019 年度 調達：資料招請・意見招請
- ④ 2020 年度 調達：入札・契約・構築
- ⑤ 2021 年度 調達：テスト運用
- ⑥ 2022 年 4 月 正式運用開始

検討用（敲き台）ロードマップ

フェーズ／年・期	2018				2019				2020				2021				2022			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
これから委員会	電子情報資源・印刷体の統合的運用の検証																			
	「これからの学術情報システムの在り方について」の改訂																			
CAT2020	CAT2020開発																			
	図書館総合展				CAT2020テスト運用				CAT2020開始											
	CAT2020基準/CM/セルフラーニング改訂																			
					CAT2020説明会/セルフラーニング															
CAT/ILL (NII側のシステム)	大学図書館研究特集(仮)				次期CAT/ILL導入方針決定				調達				テスト運用				リプレイス			

平成 26 年 12 月
国立情報学研究所

2020 年目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) 再考のための提議

1 現況

1985 年に目録所在情報サービスの運用を開始して移行、大学図書館等のサービス参加機関と連携・協力する形でサービスの充実・拡大を図り、現在は、約 1,200 の参加機関、約 1,000 万件の書誌レコード、約 1 億件の所蔵レコード、約 80 万件の ILL 処理数、約 6 億円の予算を抱える大規模サービスとなっている。

2 問題意識

現在、非常に安定的に運用されているかに見える目録所在情報サービスであるが、いくつかの懸念も存在する。

・ **学術情報の変化**：かつて大学図書館が扱っていた学術情報は、基本的に紙媒体で出版された図書であり、雑誌であった。然るに今日では、電子的な媒体が流通し、誰もが己の持つ情報を公開可能になり、流通過程も複雑化している。昭和 55 (1980) 年の学術審議会答申『今後における学術情報システムの在り方』で打ち出された「資源共有」という理念に基づいて目録所在情報サービスは構築されたが、今日の社会的情勢や要請との乖離が指摘されており、そもそもの理念のところから再考しなければならない。

・ **安定運用であるがゆえの施策順位の低下**：このような変化の中で、大学図書館において、コアとなる業務が 30 年前と今日とでは変わってきている。多様化する図書館業務の中で、業務フローが確立された目録業務は改善の必要な業務ではなく、システムもほぼ停止することなく稼動していることが当然とみなされていても何ら不自然ではない。加えて、大学図書館を所管している文部科学省においても、安定運用している目録所在情報サービスについては、全く顧みられることはなく、意識の外にあるとあってよい。その結果、大学図書館において事業の拡大や次世代にむけた改善の対象として検討の俎上に上ることが全くなくなり、国家的な学術情報政策において取り上げられることもなくなった。

・ **レガシーな事業モデル・運用モデルのコスト**：サービス開始以来、参加館に対してサービスは無償で提供されている一方で、国立情報学研究所が国に対して、毎年、概算予算要求を行うことによってコストを負担してきた。しかし、国家財政の厳しい状況の中で、特別経費という枠組みでは、社会インフラとしての「目録所在情報サービス」の予算は年々削減される一方である。これまでは、なんとか支弁が可能であったが、これ以上の予算削減があると、ある年から事業の維持に必要な経費が一挙に確保不能になるという事態もありえるという危機感を国立情報学研究所は持っている。

一方で、30 年前に構築された運用モデルには、必要以上のコストがかかっているのではないかという疑念もある。当時のコンピュータ資源の限界性のままに、人手での処理や複雑なルールで運用を行うことのコスト効率は検討を要する課題である。国立情報学研究所

としては、高コスト状態にある現行の運用モデルやシステムを見直し、人的資源やシステムリソースの効率化を図り、持続可能なサービスを実現したいと考えている。

・ **大学図書館の参加意識の低下**：サービスの存続に関して国立情報学研究所が抱えている危機感が図書館コミュニティに共有されていないことも懸念される場所である。参加館の数が増大し、母体・規模も多様になるにつれ、「当事者意識」と言えるものが参加館の間でも希薄になっている。平成23（2011）年に図書館職員に向けて行ったアンケート調査¹でも、「共同分担入力方式」という言葉で示される、今の運用モデルに主体的に関与していない機関があることが指摘されている。

ただし、事業モデルのあり方が問われる中で、「分担入力」を堅持することだけが解決の方策ではなくなっていることにも留意しなければならない。これからの目録所在情報サービスに対して、大学図書館がどのような関わり方で主体性を発揮していくことが、全体としてのサービス存続につながるのかを検討する必要がある。

・ **相互理解の不足**：一方で、大学・大学図書館の将来像について、今後、大学が注力していきたい、あるいは注力しなければならないことは何なのか、大学が直面している困難は何なのか、その中で国立情報学研究所にどのような期待を抱いているのか、それらの実現にどのような方策が考えられるのか等、国立情報学研究所の理解が至らない点も存在する。学術情報センターから国立情報学研究所に組織が変わったことにより、研究所としてのミッションと大学共同利用機関としてのミッションを両立させていくことが、国立情報学研究所の課題点でもあり、強みでもある。大学への理解を増していくことにより、国立情報学研究所の強みである、技術力や研究力を事業に活かせるようにしたい。

3 提議

以上の問題意識を踏まえて、国立情報学研究所は、2020年を目途とした目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）の現在の事業モデルの再考を、大学図書館との連携・協力の枠組みのもと、両者が共に検討することを提議する。今後に向けて、これからの学術情報システム構築検討委員会を中心に検討しなければならないことを整理すると、以下のようになる。

・ **理念の再構築**：現在の、また予測し得る将来の状況を勘案した新たな理念が必要である。一時的な混乱を越えてでも、今こそが理念を再構築し、次の時代の理念を掲げる時である。そしてその理念を関係各所に説明し続けることにより、学術情報を支える仕組みを可視化していくことも必要であろう。

・ **事業モデルの見直し、システムの見直し**：国家財政への依存度の高さや事業モデル・システムの高コスト化といった様々なリスクが存在しているため、事業モデル・システムそのもの見直しが必要であると考えられる。上述の新たな理念に即応したモデル、学術情報の枠組みの変化への対応、参加館の主体的な関与を引き出す仕組み、どのようなデータを

¹ NACSIS-CAT/ILL 参加館状況調査アンケート結果報告書（平成23年3月調査）
http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/project/pdf/enq2011_1_0315.pdf

共用していくのか、コスト負担の在り方、といったことが検討すべきポイントとして挙げられる。

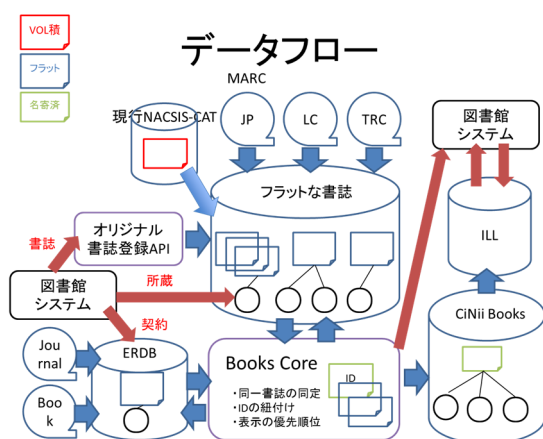
・ **大学・大学図書館との連携の一層の緊密化**：大学図書館と国立情報学研究所は、共創・共考の関係である。現状の大学・大学図書館をとりまく状況、ことに今後どのような方向に向かっているのか、どこに投資をしようとしているのか、その中で国立情報学研究所とどのような連携を期待しているのか、それらの実現にどのような方策が考えられるのか、大学図書館の見解を整理する必要があると考えている。各々が持つ危機感を共有しつつ、大学図書館と国立情報学研究所との具体的な連携方策に結実させるためには、将来を見通した希望を語る中堅・若手職員の主体的な参加も期待されている。

4 国立情報学研究所の検討状況

国立情報学研究所では、ここ数年にわたり、次期のシステムに向けた検討を行ってきた。以下は、現時点で、NII が検討している目録所在情報サービスの要件である。

- ・ **理念の再考**：従来の「資源共有」という理念を前提としつつ、資源共有の方法を拡大するため、冊子体に加えて電子リソースの取扱いを強化する。
- ・ **目録作業の簡略化による全体コストの低減**：独特の書誌構造・厳格な運用ルールを変更し、標準的な目録の使用も認める、従来大きな負担となっていた書誌調整の在り方を見直す等、共同分担入力という運用モデルを見直すことで作業の効率化を目指す。
- ・ **図書館の学術情報提供の支援**：目録業務と ILL サービスを切り離し、電子リソースへのナビゲーションも加えることで、利用者あらゆる手段で学術情報を提供しようとする図書館の活動を支援する。
- ・ **システムの再構築**：外的要因の変化に柔軟に対応するため、システムを軽量化し、コストを削減する。このことにより、多重化が容易になり、トラブル時・災害時の事業継続も可能になる。

現在想定しているデータフローは下図の通りである。



- ・ 書誌データは階層のない書誌構造とし、標準的な外部書誌をそのまま構築に使う
- ・ 現行の書誌も階層構造をなくし、データを移行する
- ・ 図書館システムから書誌・所蔵を登録できる
- ・ ERDBでは電子リソースの情報を管理する
- ・ 紙と電子の情報はCoreに集約し、名寄せを行う
- ・ 図書館システムはCoreで名寄せされた情報を取得できる
- ・ CiNiiでは名寄せされたCoreのデータを利用する
- ・ 書誌作成と書誌利用(ILL,検索)を分離する
- ・ CiNiiからも直接ILLの申し込みができる

CAT2020 クライアント作成のための技術資料（案）

1. はじめに

NACSIS-CAT/ILL クライアント作成のための技術資料・補足（2020年以降の目録所在システム（CAT2020））は、国立情報学研究所（以下、「NII」という）が、2020年度に運用を開始する2020年以降の目録所在システム（以下、「CAT2020」という。）対応クライアントシステムを作成するにあたり、現行のNACSIS-CAT/ILLシステムから変更が必要な基本的事項（ファイル構成、CATPによるオペレーション等）を解説する。

2. CAT2020 の構成

2.1 CAT2020 の概要

国立情報学研究所（以下、「NII」という。）が運用する目録所在システム（以下、「NACSIS-CAT/ILL」という。）は、1984年の運用開始以来、30年間を越える長期に渡り大学図書館との協働で冊子体を主とした書誌・所蔵レコードの作成・共有を行い、国の総合目録基盤として機能してきた。

しかし近年ではその軽量化・合理化と共に、電子リソースにも対応した基盤が求められており、国公立大学図書館等と国立情報学研究所が連携してその方策を検討し、これからの学術情報システム構築検討委員会での検討結果である「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化のまとめ（最終方針）」に添ってシステムの再構築を行い、2020年4月より、2020年以降の目録情報システム（以下、「CAT2020」という。）の運用を開始する予定である。

2.2 CAT2020 で追加されるファイルの種類

ここでは、CAT2020で追加される各ファイルの概要について記述する。ファイルの詳細な運用については、本ガイドラインの「4.各ファイルの運用」に記述する。

2.2.1 総合目録書誌ファイル

総合目録の書誌レコードを納めるファイルである。レコードの内容は、目録対象資料のタイトル、著者名、出版社等の書誌情報である。このファイルのレコードは各図書館の「共有」レコードとして登録され、同一の書誌に対する重複登録は許されない。登録、修正は各図書館で行えるが、レコードの削除はできない（この作業はNIIで行なう）。CAT2020で追加される総合目録書誌ファイルは、以下のとおりである。

(1) PREBOOK

NACSIS-CAT以外の機関が作成した書誌データである外部機関作成データ（JPMARC等）を機械的に登録した、所蔵が登録されていない書誌データを収めるファイル。

2.2.2 その他のファイル

(1) RELATION

タイトルや出版社など、データの主たる項目を比較し、同一資料を表現していると判断されるものについて、グループとしてのまとまりを作る機能である自動同定の結果得られた、グループとしてのまとまりを管理するためのファイル。

BOOKデータセットにおいて書誌データが登録される際に、既存書誌データとの条件の一致をシステムが判定し、適合した書誌IDのペアをRELATIONテーブルに保存する。

NACSIS-ILL や CiNii Books 等の書誌利用においてこれを活用することで、並立書誌データ同士をグループ化した形や関連付けた形で検索結果として返すことが可能になる。

3. 主なオペレーション

3.1 検索 (frame の作成)

レコードの検索は、BOOK と PREBOOK をシームレスに検索ができ、SEARCH,SCAN メソッドにて行う。

3.2 リンクの形成

書誌データには、従来の親書誌データに相当するタイトル及び責任表示、親書誌データに対する番号等、中位の書誌単位のタイトル及び責任表示、構造の種類等を記述することとし、これに対応する親書誌データの新規作成及びリンク形成作業は現行の必須レベルから任意レベルに変更する。

また、外部機関作成書誌データおよび NACSIS-CAT の著者名典拠データセットに含まれる典拠情報を活用して、NACSIS-CAT 著者名典拠データと書誌データとのリンク形成作業の自動化を行う。

4. 各ファイルの運用

4.1 PREBOOK ファイルの運用

4.1.1 可能なメソッド

SEARCH, SCAN, RETRIEVE, INSERT, UPDATE, INDEXLIST

4.1.2 BOOK との関係

PREBOOK は、参照ファイルのデータを、総合目録データベースの一部として自動的に登録したものである。このレコードを利用する場合は、検索を行い、検索結果に対して所蔵を付与することができる。所蔵を付与されたレコードは、一定時間毎に BOOK に移される。BOOK に移されてからは、他の BOOK レコードと同様に扱う。

4.1.3 INSERT, UPDATE 時の重複レコード警告について

重複レコードの可能性のあるレコードの場合、サーバは警告を **response** として返すので、利用者に確認を促すことが望ましい。

4.1.4 INSERT 時の注意

書誌レコードを登録する際は、必ずユーザに検索をさせて、重複レコードが存在しないことを確認させなくてはならない。この作業を行わないクライアントは、書誌レコードを登録してはならない。

4.1.5 レコードの削除

PREBOOK には DELETE メソッドは認められていない。従って、各図書館側では不要になった書誌レコードについては、UPDATE メソッドで「削除予定レコード」に修正する作業を行なう。実際のレコード削除は、定期的にセンターで行なう。

4.1.6 SOURCE について

INSERT 時、必須項目の SOURCE には以下の様にデータを記入する。

参照ファイル	SOURCE に記入するコード
DNMARC	DN
GPOMARC	GPO
JPMARC	JP
TRCMARC	TRC
UKMARC	UK
USMARC	LC
USMARCX	LCX
その他(*)またはなし	ORG

*総合目録書誌ファイル(BOOK,SERIAL)のデータをコピーして利用する場合等。

将来、新たな参照ファイルが導入された場合には、新しいコードも同時に設ける予定。

4.1.7 PUBF について

出版の役割表示で制作に関わる場合、旧システムでは出版事項全体を()で括っていたが、新システムでは PUBF に"m"を記入する。PUBF の"m"を旧システムで表示すると、()で括られて表示される。

4.1.8 表示上の注意

PREBOOK は総合目録ではあるが，その性格上，BOOK と同時に表示する場合，明確に区別するようにすることが望ましい。（表示順や色などで区別する。）

4.2 RELATION ファイルの運用

5. このガイドラインの入手法

以下の方法で，本ガイドラインの最新版を提供する予定である。

5.1 ホームページ

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/system/guideline/guideline-cat.html> ※2012.4 修正

5.2 その他の入手法

以下に連絡すること。その他の入手法について相談に応じる。

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 NACSIS-CAT 担当

TEL: 03-4212-2310 FAX: 03-4212-2375

E-MAIL: catadm@nii.ac.jp